

2000年度

講義計画

桃山学院大学

講 義 計 画

国 情 講 義

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
体育・スポーツ学講義	01	前期	2単位	永谷 峯 男
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>体育・スポーツには、さまざまな要素が含まれています。それは、個人の健康や体力に関わるものから、社会や経済とのつながりなどにも広がります。言いかえると、スポーツを楽しむ人々やチャンピオンを目指す選手から、スポーツ行政やスポーツ産業までさまざまです。我々が当然のように受け止めている今の便利な生活は、運動不足に陥り、生活習慣病をひきおこす大きな要因ですし、その生活は、ストレス社会とも呼ばれています。また、子供達や青少年の体力低下は、指摘されて久しいものがあります。それらは、生活習慣全般から体を動かすことを改めて考えなければなりませんし、これからは自己の責任と管理が必要なことです。スポーツには、楽しみや健康を主眼としたスポーツから、チャンピオンを目指すエリートスポーツまでさまざまです。また、「するスポーツ」や「観るスポーツ」の言葉もあります。そして、オリンピック等に代表される組織や大会は、ビジネスやナショナリズムにも繋がっています。本講義では、二つのポイントをもって開講します。一つは健康論の基礎として、もう一つは社会・経済・文化等の側面から考察します。諸君が体育・スポーツにたいして、自ら考えるとともに、実践する契機としての講義を目指します。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>I スポーツと健康</p> <p>①からだはどうか ②生体のリズムと生活 ③スポーツとストレス ④スポーツの功罪 ⑤身体運動・体力づくり</p> <p>II スポーツと社会</p> <p>①スポーツの歴史 ②世界のスポーツ事情 ③日本のスポーツ事情 ④スポーツとお金 ⑤スポーツは楽しいものなのか、そしてみんなのスポーツ</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポートとテストで評価します。 出席点を加えます。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>小野三嗣 『健康・体力づくり入門』（大修館）</p> <p>中村俊雄・出原泰明・等々力賢治（共著）『現代スポーツ論』（大修館）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>教科書は指定しません。必要な資料はプリント配布します。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
体育・スポーツ学講義	02	前期	2単位	長谷川 修一郎
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>機械文明が高度に発達した現代社会は、便利で安楽な生活環境をつくりだした。一方、1960年頃から「青少年のからだがかかおかしい」と実感されるようになった。その後、30数年経った1994年に本学の体育担当教員の共同研究で全国の480大学から回答が返送された。結果は、「アレルギー疾患」、「すぐに疲れたという」、「すぐにしゃがむ」、「視力低下」、「腰痛」、首筋が凝ったり肩がこる」、「風邪を引きやすい」等の症状がワースト10をしめた。動物としてのヒトは動くことを宿命づけられており、動くことによって生命が維持されているのである。ワースト10の症状は絶対的な運動不足の結果であると言える。本講義では、便利で安楽な生活環境における健康・体力の獲得に向けた生活習慣の見直しを共に考えたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>I. 序論</p> <p>II. 健康の概念の拡大</p> <p>1、最近の青少年の「からだのおかしさ」</p> <p>2、最近の青少年は体格は良いが、体力が低下していると言われることの実態</p> <p>III. 現代生活と健康・体力</p> <p>1、現代社会における体力の意義</p> <p>2、生体リズムと生活リズム</p> <p>3、食生活と栄養</p> <p>4、体脂肪測定の実施</p> <p>IV. 生活のなかでの体力づくり</p> <p>1、体力の構成要素</p> <p>2、トレーニングの原則</p> <p>3、筋力トレーニングと持久力トレーニング</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>単元ごとにクイズを課し、終了時にテストを行う</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>単元ごとに資料提供</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
体育・スポーツ学講義	03	前 期	2 単位	高 成 廈
[講義概要・学習目標] <p>現在では、“健康をWELLNES”（良好な状態）ととらえる考え方が大勢を占めている。“WELLNES”は、個人の責任や管理のもとで、最適な健康を求めるライフスタイルとみなされている。したがって、健康は、できる限り良好な状態を実現するために生涯にわたって行われるアプローチである。</p> <p>現代社会における健康についての問題点を十分に認識し、健康であることの意義を深く考え、健康的な生活習慣の確率と実践をねらいとする。</p>	[講義計画] <p>I 現代生活と健康・体力 II 現代社会とスポーツ</p> <p>1. 都市生活と健康 1. 現代社会の特徴とスポーツ 2. スポーツと健康 2. 日本の体育・スポーツ行政の現状 3. 体力づくりの理論 3. 日本のスポーツ施設の現状と問題点 4. 体力づくりの方法 4. 諸外国のスポーツ事情</p>			
[成績評価の方法] <p>期間内テスト2回を課して評価する。</p>	[参考文献]			
[教科書] <p>資料をプリント配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
体育・スポーツ学講義	04	後 期	2 単位	今 西 俊 次
[講義概要・学習目標] <p>スポーツ・レクリエーションなどの身体活動は、現代社会において多様な価値をもっている。たとえば、今日のように“快適で便利な社会”“豊かな社会”になっても、人間は“動く物”であることを否定できないし、適度に動くことは生涯を通して求められる。そして、“健やかに生きる”ということは、個人、家族および社会にとって重要な課題である。そのために、我々が生活している社会・環境を見つめ、日々の運動・栄養・休養に関する生活習慣を見直すことは不可欠である。</p> <p>本講義では、今日的な健康問題が発生する要因と問題への処方、日本と欧米におけるスポーツ事情等について理解を深め、現代社会におけるスポーツ・レクリエーションの役割と意義について考える。</p>	[講義計画] <p>I. 現代生活と健康・体力</p> <p>1. 現代生活の特徴 2. 生活習慣と健康・体力 3. 身体組成（体脂肪）と健康 4. 運動とからだ 5. 健康・体力づくりの考え方と原則 6. 健康・体力づくりの方法</p> <p>II. 現代社会とスポーツ</p> <p>1. 欧米における体力づくりの歴史 2. 日本におけるスポーツ・レクリエーションの現状と課題</p>			
[成績評価の方法] <p>レポート、テストなどによって総合的に評価する。</p>	[参考文献]			
[教科書] <p>資料を配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
体育・スポーツ学講義	05	後 期	2単位	高 橋 ひとみ
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>高度経済成長により、生活は便利で豊かになってきた。反面、生活の機械化・省力化が進み、様々な電化製品や自家用車が普及し、日常生活において身体を動かす機会が減少し、「運動不足病」が人々の健康を蝕んでいる。加えて、都市化や通信・交通の発達により人々の生活のリズムは崩れ、心身のストレスを増幅している。</p> <p>ストレス社会を迎え、時代のキーワードともいえる「健康」について、そして、「健康」生活をおくるうえで欠くことのできない「運動」・「休養」・「栄養」について学習する。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康問題と健康教育 2. 運動と健康 3. 休養と健康 4. 栄養と健康 5. 環境衛生と健康 6. 新しい疾患と対策 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験および小テストにより成績評価を行う。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>「みんなの健康科学」 高橋ひとみ編著 明研図書</p>				

【概要】

「体育・スポーツ学実習（旧保健体育実技）」は、「健康トレーニングコース」「スポーツ文化コース」「シーズンスポーツコース」「障害者スポーツコース」「レクリエーション・スポーツコース」「スポーツトレーニングコース」から成り、種目別にクラス編成されます。この科目は予備登録ならびに履修登録が必要です。

予備登録の方法については、別紙『「体育・スポーツ学実習」予備登録要領』を参照してください。

A. 健康トレーニングコース

種 目	対 象	開 講 期 間	単 位 認 定 基 準
エアロビクス、ボディビルディング	男女	半 期	12講時+レポート
トータル・ボディ・シェイプアップ	女	半 期	

B. スポーツ文化コース

種 目	対 象	開 講 期 間	単 位 認 定 基 準
バレーボール、バスケットボール、水泳 硬式テニス、バドミントン、卓球、ゴルフ	男女	半 期	12講時+レポート
サッカー、ハンドボール、ソフトボール 軟式野球、室内サッカー	男		
女子トリム・ソフトボール	女		
剣道、柔道、ラグビー、スケート アーチェリー	休 講		

※1. 女子学生は、原則としてサッカー、ソフトボール(男)、ハンドボール、ラグビー、軟式野球、室内サッカーは受講できません。

2. ゴルフは打球費を必要とします。

3. 硬式テニス、サッカー、バドミントンに経験者クラスを設けます。

C. シーズンスポーツコース

- ① スキーは、事前に学内でストックワークなどの自主トレーニングを2日間行い、2月中旬にスキー場で集中実習を実施します。
- ② 集中硬式テニス〈初級者〉は、9月上旬に集中実習を実施します。

種 目	期 間	場 所	参 加 費	手 続	備 考
スキー	2月中旬 (4泊5日)	戸隠スキー場	約35,000円 (リフト代含)	11月	01, 02クラス
集中硬式テニス 〈初級者〉	9月初旬 (4日間)	学内テニスコート	な し	7月	
集中ゴルフ・ 集中硬式テニス 〈経験者〉	休 講				

※1. スキーでは参加費以外に、交通費、スキーレンタル代などの経費が必要です。

2. 硬式テニスは他の集中講義科目と重複して履修できません。

D. 障害者スポーツコース

障害者スポーツコースは、個人の体力や能力に応じて運動処方します。主に身体虚弱者、肥満者、身体障害者および肢体不自由者などを対象としています。(このコースを希望する場合には、事前に体育課へ申し出てください)
なお、本コースに関心のある者の受講も認めますので、積極的に参加してください。

種 目	対 象	開 講 期 間	単 位 認 定 基 準
身障者スポーツ	身体障害者等	半 期	12講時+レポート

※対象者以外で受講を希望する者は、体育課で相談してください。

E. レクリエーション・スポーツコース

種 目	対 象	開講期間	単位認定基準
キャンプ、カヌー、レクリエーション・スポーツ		休	講

F. スポーツトレーニングコース

このコースは、主として体育会に所属している学生を対象としていますが、それ以外の学生で、スポーツに関心のある学生の受講も認めています。内容は、専門的にスポーツを実践し、指導するのに必要なスポーツ科学の理論と実技を学習します。

種 目	対 象	開 講 期 間	単位認定基準
スポーツトレーニング	体育会に所属している学生および一般学生	半 期	12講時+レポート

〈実習受講に関する注意〉

(1) 単位認定

開講時間は12講時（24時間）+レポートを原則とします。

(2) テキスト

必要に応じて指示します。

(3) 服 装

服装はトレーニング・ウェア（水泳クラスは競技用水着・帽子・ゴーグル）を着用し、グラウンドではグラウンドシューズ、テニスコートはテニスシューズを使用してください。体育館・トレーニングルームにおいては、必ず上ばき（体育館シューズ）を使用してください。グラウンドシューズとの兼用は認めません。

(4) 更 衣

指定された場所で更衣し、盗難防止のため貴重品は、各自、ロッカーに保管してください。特に前期・後期の授業開始直後は盗難が多く発生しています。

(5) 教 場

グラウンド、コートなどの状態や行事などによって、教場を変更する場合があります。毎時間、総合体育館内掲示板で確認してください。

(6) 用 具

スポーツコースの用具は貸与しますが、各自所有の用具を使用することも可能です。シーズンコースのスキー用具は各自で準備してください。

(7) 体育館シューズ

体育館内で行う種目は、各自で体育館シューズを準備してください。

《注意》

更衣は指定された場所で行うとともに、利用したコインロッカーは必ず施錠してください。前期初めおよび後期初めの約1ヵ月間は特に盗難が多発しています。また、スポーツシューズの盗難も多いので注意してください。

〈欠席の取り扱いについて〉

- (1) 理由のある欠席届があれば2回までの欠席は認めます。ただし、無届け欠席を2回するとその時点で受講を取り消すことがあります。
- (2) ・クラブ公式戦、学外での合宿・発表会・演奏会等、およびゼミ合宿等による欠席は、クラブ部長・顧問、ゼミ教員等の証明により公欠扱いとします。
 - ・4回生以上の就職活動（会社訪問・受験）については、就職課の証明により公欠扱いとします。
 - ・忌引については、「公認欠席取扱規程」により、学生課で手続きしてください。
- (3) 体育実習の見学（例：風邪、腹痛、頭痛、服装の忘れ物等）は、原則として認めません。

〈施設・用具の利用について〉

授業中の教場には、受講生以外の立ち入りは禁止します。ただし、体育実習の自学自習およびスポーツ活動の恒常的実践化奨励のため、一般学生への施設の開放時間を設けています。用具の貸し出しも行いますので、希望者は体育課窓口申し出てください。

使用可能場所・時間帯については体育館内掲示板等で確認してください。ただし、雨天の場合は屋外で行う授業の代替教場として館内施設を使用しますので、開放は一時中止します。

〈集中コース種目のガイダンスについて〉

集中コースの授業は、事前にガイダンスを行いますので必ず出席してください。授業と重なる場合は体育課窓口で相談してください。ガイダンス会場は追って掲示します。

- (1) 集中硬式テニス〈初級者〉
 - 6月14日（水） 5時限目
- (2) スキー
 - 10月26日（木） 5時限目

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権問題Ⅰ（人権問題概説）	01 02	前 期 後 期	2単位 2単位	生 瀬 克 己
[講義概要・学習目標] <p>1948年12月に国連が採択した「世界人権宣言」は、その第1条において「すべての人間は、生れながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利について平等である。人間は理性と良心を授けられており、互いに同胞の精神をもって行動しなければならない」とうたっている。まことに高邁な理想であるが、こうした理念が現実化していないことは誰の目にも明らかであろう。</p> <p>そこで、上記のような理念と現実の諸社会に生きている人びとの現実の間には、どのような問題があるのか。そうした「苦悩の現実」を解決するために、どのような取り組みがなされているのか。そうした諸点をできるだけ幅広く解説していくことにする。</p>	[講義計画] (1) 「国際人権」という考え方 (2) 難民問題と人権 (3) マイノリティー・グループをめぐる諸問題 (4) 地球の環境をめぐる (5) 個別の諸問題			
[成績評価の方法] <p>学年末に実施する「論術式筆記試験」が60%。講義期間中に教室で実施するレポート等が20%。質問や問題提起などによる日常活動が20%。</p>	[参考文献] <p>そのときどきに指示します。</p>			
[教科書] <p>特には指定しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権問題Ⅱ —人権の思想と歴史<世界>—	01	前 期	2単位	尾本 恵市
[講義概要・学習目標] <p>テーマ：人種とは何か 民族はヒトの文化による区分で人種は生物学的な区分であるといわれる。しかし、はたしてそれでよいのか？古典的な人種概念には多くの問題点がある。たとえば、わが国の先住民族集団であるアイヌはかつては「白人」であるとされていた。この講義では、人種分類の誤りや問題点を指摘し、生物学的な概念としての人種はもはや成立し得ないことを示す。しかし、ヒトが世界中の多様な環境に適應している特異な点も忘れてはならず、地理的多様性に関する研究には意味がある。しかし、それはかつての人種学のように差別にむすびつくものであってはならない。この講義は、ヒトの地理的多様性の研究と人種概念の変遷、さらに人種差別の歴史を通観することによって、人権を考える上で必要な基礎知識を与える。</p>	[講義計画] <p>今世紀前半までの古典的な人種分類について講義した後で、今世紀後半からのヒトの地理的多様性に関する新たな研究方法を日本人の起源研究を例にして解説し、さらに人種差別の撤廃に向けての国際的な取り組みの現状についても講義する。理解を助けるため、随時ビデオ等を使用する。</p>			
[成績評価の方法] <p>試験は行わず、出席点およびレポートによって評価する。</p>	[参考文献] 沖浦和光 「日本文化の源流を探る」 解放出版社 (1997) 萱野 茂他 「アイヌ語が国会に響く」 草風館 (1997) 尾本恵市 「分子人類学と日本人の起源」 裳華房 (1996)			
[教科書] <p>担当講師の自著論文等をプリントとして配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権問題Ⅱ －人権の思想と歴史<世界>－	0 2	後 期	2 単位	尾本 恵市
[講義概要・学習目標] テーマ：先住民族と人権 前期の講義では、古典的人種分類が破綻したことについて述べた。この講義では、それをふまえて、講師自身が研究を行ったアジアの先住民族の2集団（北海道のアイヌとフィリピンのアエタ）について、その生物学的な由来と植民者による迫害の歴史、現在および将来の人権上の問題点等について講義することによって、人権を考える上で必要な基礎知識を与える。とくに、アイヌについては、我が国の先住民族であるにもかかわらず、その文化の内容について学校等でほとんど教えられていない現状である。また、アエタは1991年のピナツボ火山の大噴火によって、居住地を失った苦難の現状にある。これらの現状を示すことによって、先住民族の問題を重要な人権問題として考える基礎としたい。	[講義計画] アイヌやアエタの文化や世界観、植民者による迫害の歴史や現在も存在する人権上の問題点、差別撤廃に向けての国際的な取り組みの現状等等について、ビデオ教材を多用して講義する。毎回、出席票に質問や感想を書いてもらい、次回に答えるという授業のスタイルによって、教師と学生との間の双方向的なコミュニケーションを図る。			
[成績評価の方法] 試験は行わず、出席点およびレポートによって評価する。	[参考文献] 萱野 茂他「アイヌ語が国会に響く」草風館（1997） 沖浦和光 「日本文化の源流を探る」 解放出版社（1997） 尾本恵市 「分子人類学と日本人の起源」 裳華房（1996）			
[教科書] 担当講師の自著論文等をプリントとして配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権問題Ⅱ（人権の思想と歴史「日本」）	0 1 0 2	前 期 後 期	2 単位 2 単位	柳 父 章
[講義概要・学習目標] 日本の人権の思想と歴史を、異文化との関わりという視点から考えていく。人権という考え方は西洋で生まれた文化で、やがて世界中に広められた。だから、西洋文化が伝わる前の日本には、西洋文化におけるような一人の人間尊重の思想はなかったわけである。これが出発点である。しかし、それと比較して同じではないが似たような考え方はあった。まず仏教思想である。それから近世のキリシタン、そして近代以後の人権思想である。そして、西洋の人権思想と比較して、日本における「人間」というものについての考え方の特徴も分かってくる。その背景には、中国、インドの思想もある。そういう広い背景から日本の人権の問題について考えていきたい。	[講義計画] 日本の歴史には、異文化との大きな出会いには、4つのピークがある。まず古代、次に近世、そして近代、現代である。歴史の順序としてはこうであるが、人権の基本的考え方が明らかになったのは現代、とくに日本国憲法であるから、そこから出発して、次に歴史をさかのぼって考えていく、という順に講義していきたい。			
[成績評価の方法] 毎時間ではないが、随時講義のあとで小テストをする。この小テストと、期末の試験とを総合して評価する。	[参考文献] 杉原泰雄著『人権の歴史』 岩波書店 1992			
[教科書] とくにない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権問題Ⅲ（現代社会と人権）	01	前期	2単位	巖 圭 介
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この講義では人権問題としての環境問題をあつかう。「どの世代もこの地球を自由にしてよいという権利はない。われわれは1代限りの借家人である。」これは1988年10月イギリス保守党大会におけるサッチャー元首相の演説である。このような認識が1988年頃から急速に各先進国に広がったにもかかわらず、地球環境は急速に悪化しさまざまな問題が表面化している。環境破壊は、現時点でもさまざまな人権侵害を含んでいると同時に、未来の人類の生存を脅かすという意味においてわれわれの子孫に対する人権侵害でもある。</p> <p>この講義では人権問題という位置づけでさまざまな地球環境問題を紹介する。内容的には巖が担当する他の講義（環境問題概論）と重なる部分が多いことをあらかじめ了解していただきたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>おもに次の3つのテーマに沿って進行する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの処分をめぐる争い ・奪われし未来—忍び寄る人工化学物質— ・貧困と飢餓と環境破壊 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>2回の短いレポートと期末試験により判定する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて授業中に示す</p>			
<p>[教科書]</p> <p>とくになし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権問題Ⅲ（現代社会と人権）	02	前期	2単位	寺 木 伸 明
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>現代の日本社会には、部落差別、在日朝鮮人差別、女性差別、障害者差別、アイヌ差別などの差別問題の他にも、学校におけるイジメ問題、高齢者問題、児童虐待の問題、外国人労働者問題そして環境問題などさまざまな人権問題が存在している。いうまでもなく、こうした諸問題の解決は、いずれも基本的人権にかかわる重要な課題である。</p> <p>本講義では、人権問題の今をとりあげ、検討したい。そして、それらの人権問題がどのような影響を個人と社会に及ぼしているのか、その解決をめざしてどのような取り組みがなされているのか、できるだけ視野を世界に広げて考えてみたい。講義は、ビデオ教材を活用して、具体例をあげながら進めたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における人権とは何か 2. 人権をめぐる国連の取り組み 3. 差別と人権 4. 環境と人権 5. 国際的な人権確立を求める潮流の現況 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>テストの結果を成績評価の基本とする。 時々課す小レポートも、考慮する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>内野正幸『人権のオモテとウラ—不利な立場の人々の視点』明石書店</p>			
<p>[教科書]</p> <p>上田正昭編『国際化のなかの人権問題』明石書店</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権問題Ⅳ (在日韓国・朝鮮人問題)	01 02	前 期 後 期	2単位 2単位	金 秀 吉
<p>[講義概要・学習目標] 現在、約65万人の韓国・朝鮮人が日本に定住している。この定住者を一般的に「在日韓国・朝鮮人」と称している。また、時には略して「在日」ともいわれる。 本講義を担当する私自身は在日3世であり、その体験を客観的にふまえながら、在日の〈過去・現在・未来〉を出来るだけ具体的に提示し、その理解と認識を深めていきたい。 その実践として、これまで在日韓国・朝鮮人を素材、またはテーマとして作られた映画(自作『潤の街』などを含む)や、テレビ・ビデオなどの映像作品をテキストとして利用することにより、在日を取りまく昨今の状況(2002年にサッカーのワールドカップが日・韓共催で行われるというわりには、在日の状況性は、その共催決定前と比べ、あまり進展がないということなど)が、より具現化され、学生各自がそれぞれにとっても身近な課題であるということ(受)性を知識にとどまらず、未来の可能性を押しひろげてゆくための感性の領域に対する喚起も探究してゆきたい。</p>	<p>[講義計画] 1 在日韓国・朝鮮人問題とは何か 2 在日の 歴史 3 在日の現状 4 在日はどのように表現されてきたか 5 在日をどのように表現するか 6 在日の未来と展望</p>			
<p>[成績評価の方法] 教室での小レポートと、期末のテストを加味して評価する。</p>	<p>[参考文献] 蔵田雅彦(著)「隣人としてのアジア」(日本基督教団出版局) 蔵田雅彦(著)「マイノリティーを旅する」(草風館) 田中宏(著)「在日外国人」(新版)(岩波新書) 鄭早苗・徐正禹(監修)「新・よりよき隣人として」(KMJ研究センター) 桃山学院大学(編)「定住外国人の人権」(改訂版)(桃山学院大学)</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権問題Ⅴ(障害者問題)		前 期	2単位	生 瀬 克 己
<p>[講義概要・学習目標] 世の中の障害のある人も障害のない人も、それぞれ自分なりの生きる目標がもてて、生きがいのある充実した人生のおくれる社会にするための考え方を「ノーマライゼーション」と呼んでいる。 その場合、障害のある人が思うだけ「社会に参入」していくためには、それにふさわしいシステムを社会の側で用意しなければならない。だが、それだけでは、たぶん、十分ではない。障害のある人も、ない人も、それぞれの側から望ましい「共生社会」がどのようなかを見きわめながら、その方向にむかっての、双方からの工夫と努力が必要となってくる。そうした意味での「工夫」と「努力」はどのようなもので、いかにして、それらをなしとげうるかを考えることにしたい。</p>	<p>[講義計画] 障害者の登場する映画をビデオで観て、障害者がどのように映像化されてきたかを考える。そのうえで、その論点や課題を教室でレポートにまとめてもらったり、ディスカッションしたりする。</p>			
<p>[成績評価の方法] 学期末に実施する「論述式筆記試験(60%)」と、講義期間中に教回を実施する予定の「レポート(20%)」、質問・問題提起などによる「日常参加(20%)」。</p>	<p>[参考文献] そのときどきに指示します。</p>			
<p>[教科書] とくには指定しません。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権問題VI (部落問題)		後 期	2 単位	寺 木 伸 明
【講義概要・学習目標】 <p>本講義では、まず、人権とは何か、人権問題とは何かを考え、そして部落問題にかぎらず人権問題の解決がなぜ各人の課題になるのかについて検討する。次に、部落問題をなぜ学習するのか、その理由と意義について考える。こうした基礎的理解の上にたって、被差別部落の現状や部落差別の実態について具体的に説明する。つづいて、こうした差別がいつごろ、どのようにして始まり、どのように変遷してきたのか、また、厳しい差別の中を部落の人々がどのように生き、闘ってきたのかを明らかにしながら、部落解放の展望についても考えていきたい。講義は、ビデオ教材を活用して、具体例をあげながら進めたい。</p>		【講義計画】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 人権・人権問題とは何か 2. 部落問題とは何か 3. 被差別部落の現状と部落差別の実態 4. 被差別部落に生きて (ゲスト講師予定) 5. 被差別部落の歴史 6. 部落解放運動の歴史 7. 部落解放の課題と展望 		
【成績評価の方法】 <p>テストの結果を成績評価の基本とする。 時々課す小レポートも、考慮する。</p>		【参考文献】 <p>小林 茂編『人権のあゆみ』(山川出版社)</p>		
【教科書】 <p>解放出版社編『部落問題 資料と解説』(解放出版社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権問題VI (女性問題)		後 期	2 単位	生 瀬 克 己
【講義概要・学習目標】 <p>多くの人がとは、たがいの異性ととも生きてきた。しかし、その形はその時々で違っていた。そして、近代になって、男女平等がさげられるが、他方では、男性は社会で働く女性は家庭で家事・育児をするというような性別役割が固定化していく。だが、女性が社会に出て活動するのが当たり前の社会になると、こうした形態は不都合が多くなって来る。とくに、女性にとってはそうである。そして、それは、男性にとっても「息苦しい」ものである。そこで、男女のそれぞれが精一杯に生きていける社会とはどのようなものかということを考えていきたい。</p> <p>以上のような課題を念頭に置きながら、具体的には、日本映画が描いてきた女性たちの有り様を素材にして検討していくことにしたい。</p>		【講義計画】 <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに――「女性」のことがなぜ問題にされたのか？ 2 前近代から「近代」へ 3 性別役割分業社会の構造と意味 4 「モダンな女性」「モダンな男性」の登場 5 セックス・ワーカーをめぐる日米映画の相違 6 インテリ女性の仕事と人生 7 日本の住宅と男女の関係 8 おわりに――われわれの現実と目標 		
【成績評価の方法】 <p>学期末に実施する「論述式筆記試験(60%)」と、講義期間中に数回は実施する予定の「レポート(40%)」の合計点で評価する。</p>		【参考文献】 <p>今泉容子『日本シネマの女たち』ちくま新書 1997</p>		
【教科書】 <p>とくには指定しません。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権問題Ⅶ (環境問題と人権)		後 期	2 単位	巖 圭 介
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この授業では、20世紀の日本の歴史を環境問題という観点で振り返り、さまざまな環境問題の中でふみつけられてきた人権について考える。</p> <p>日本は、明治維新からの富国強兵、殖産興業政策、戦後の復興と高度成長期にいたるまで、工業化が最優先され環境行政はほとんど省みられることはなかった。その中で、局地的な鉱害を始めとして、工業地帯周辺住民への健康被害が出現し、高度成長期にはついに水俣病、イタイイタイ病が登場して、公害問題が広く社会に認識されるようになった。激しい公害反対運動が起こるようになった1970年頃をさかいに環境行政が本格化した。それまで局地的な現象であった公害はより広い範囲に影響するようになり、やがては地球全体にまで影響をおよぼす現在の地球環境問題へとその様相を変えていった。</p> <p>このような歴史の中で、被害者はどのように扱われてきたかを知り、そして現在の地球環境問題の被害者と加害者はどこにいるのか、ということを考えてもらいたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>おおむね以下のようなテーマに沿って進行する予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境問題のはじまり ・鉱害 ・大気汚染の変遷 ・水質汚染の変遷 ・水俣病 ・イタイイタイ病 ・現代の地球環境問題 <p>[成績評価の方法]</p> <p>2回の短いレポートと期末試験により判定する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>とくになし</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて授業中に示す</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化 I (日本のなかの外国文化 I)	01 02	前 期 後 期	2 単位 2 単位	片 倉 穰
[講義概要・学習目標] 日本のなかの外国文化を考察する。古来、日本にはさまざまな外国文化が波及・伝来し、日本の文化形成に大きな影響を与えてきた。それらは史蹟・文化財として残り、あるいは伝統文化のなかに無意識に継承されている。いまは文化の表面から消滅したものもある。日頃、日本人の多くはそれらをほとんど意識しないようである。本講義は、近年の歴史学・民俗学・文学その他の研究成果を紹介しながら、日本のなかの外国文化の受容過程・存在理由や、これをめぐる日本人の意識状況を検討する。 この講義の目標は、日本文化と外国文化のかかわり、日本文化の多様性と独自性、日本人の外国観を解明することにある。	[講義計画] (1) はじめに —— 問題提起 (2) 神々のなかの外国 —— 『古事記』を中心に (3) 古典のなかの外国 —— 『万葉集』をとおして (4) 供養塔・慰霊碑等を建立する日本人の外国観 (5) 「鎖国」と外国文化 —— 四つの窓口 (6) 人形類にみられる外国文化 (7) 日本人とアフリカの出会い (8) 現代の自治体と外国文化 —— 姉妹都市提携の現状と問題点 (9) おわりに —— まとめ			
[成績評価の方法] 講義中に実施される小テスト(レポート)および期末試験等により評価する。	[参考文献] 講義中に紹介する。			
[教科書] とくにない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化 I (海域アジアの森と海の文化)		後 期	2 単位	深 見 純 生
[講義概要・学習目標] 「海域社会」という観点からアジアの社会を見直してみる。常識つまり「陸域」中心の観念から自由になることによって見えてくる重要な事柄がいくつもある。海域社会の典型的な姿は東南アジアに見ることができる。地球上で唯一の「島の熱帯」であり、その海が「生活者の海」であり、海のシルクロードの大幹線が通っているからである。「島の熱帯」の森と海は、国際交易と結びついていっそう重要性を明らかにする。この世界のモンスーンの支配性もまた重要である。こうした海域社会を理解するためのいくつかの手掛かりを考える。 授業はビデオを多用する。映像によって東南アジアの森と海の様々な側面とそこに生きる人々の多様な姿を観ることを通して、その文化の有り様を考えてみたい。	[講義計画] 1. 「島の熱帯」の生態学 熱帯雨林の特徴/その人間にとっての意味/居住適地 2. モンスーン 風向と季節/その重要性 3. 「海域社会」 その特徴/「海域アジア世界」の中の東南アジア/史的展開			
[成績評価の方法] 時々の小レポートと期末試験を総合して評価する。	[参考文献] 京都大学東南アジア研究センター編『事典東南アジア 風土・生態・環境』弘文堂 1997 [桃園R292.3] 門田修『海が見えるアジア』めこん 1996 [桃園A292.09] 家島彦『海が創る文明』朝日新聞社 1993 [桃園A225.9] その他教室で時々指示する。			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅰ（インドの叙事詩）		前 期	2単位	小 林 信 彦
【講義概要・学習目標】 <p>遙か昔から今日までインド人に親しまれている二大叙事詩を取り上げて、インド文化の一端に触れる機会を与える。最初に扱う『マハーバーラタ』は世界最大の叙事詩であり、全編で20万行から成る。皇位継承をめぐる従兄弟同士の争いの物語であるが、10日間の凄惨な最終戦争に至る対立の経過が登場人物の幼児期に溯って語られる。次に扱う『ラーマヤナ』はインドの国民的英雄ラーマの物語である。皇位継承を妨害されて国を追われたラーマは、旅に出て数々の試練を切り抜けた後に帰国し、国民から圧倒的な支持を受けて皇位に就く。</p>	【講義計画】 <p>まず、叙事詩の挿話の一つである『ナラ物語』を翻訳で読み、次に二つの大叙事詩を日本語要約で読む。テーマの反復という見地から作品の構成を検討し、インドの叙事詩がもともと口頭で伝承されてきたことを明らかにする。</p>			
【成績評価の方法】 ① 三つの作品について、それぞれ要約を提出させる。 ② 夏休み中に小論文を書かせる。	【参考文献】			
【教科書】 ① 鑑淳訳、『ナラ物語』（岩波文庫） ② 奈良毅他訳、『マハーバーラタ』上、中、下（レグルス文庫） ③ 河田清史訳、『ラーマヤナ』上、下（レグルス文庫）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅰ（インドの社会と文化）		後 期	2単位	小 林 信 彦
【講義概要・学習目標】 <p>10億の人口を擁するインドは、15の言語が公用語として憲法で認められていて、近代国家に不可欠なはずの国語がない。また、民族宗教とも言うべきヒンドゥー教の外に、全く異質な外来宗教であるイスラム教も各地に深く根を下ろしている。インドは極めた多様性に富む文化圏である。ところが一方では、数千年にわたって続く強い伝統文化があって、インド世界の統一を支えている。本年度は19世紀後半のヒンドゥー復古運動に始まる政治と文化の流れをたどって、古典の伝統と現代インドとのかかわりについて説明する。</p>	【講義計画】 <p>この科目の目標はインドに関する正確な基礎知識を提供することであり、文化伝統の一貫性という視点からこれを試みる。</p>			
【成績評価の方法】 ① 四週間ごとに講義内容の要約を提出させる。 ② 学期末に試験を行う。	【参考文献】			
【教科書】 なし。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化 Iー国際理解をめざして	0 1	前 期	2 単位	野尻 亘
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>今日、日常生活においても、産業活動においても国際的な交流はますます盛んとなっている。しかし、現実の世界では、一方では、地域紛争や諸民族の対立、地球規模での環境問題もますますはげしくなっている。</p> <p>このような中で、まず私たちが大学生として、世界市民として、国際的な諸問題をどのように理解していったらよいのか。具体的なテーマをもとに解説していくこととしたい。</p> <p>同時に、大学入学直後のガイダンスをかねた内容とする。</p> <p>前期は履修希望者が集中し、大教室に入りきれない（授業が聞けない）ことがあります。同じ授業を後期にも開講しているのので、できるかぎり後期に履修してください。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本と外国の大学の違い 2. 大学生としての生き方と情報処理のしかた 3. 高校までとは違う大学生としての勉強のしかた 4. 図書館の効果的な使い方 5. アメリカ大都市における民族問題 6. モノカルチャー経済からの自立 ラテンアメリカ諸国の苦悩 7. アフリカ 人口・食糧不足・難民問題 8. ヨーロッパ EUへの地域統合への模索 9. CIS シベリア開発の困難 10. 急成長するアジア経済 11. 日本、東と西・北と南、多様な自然環境と文化 12. 日本、高度経済成長から持続的発展へ 今後の私たちの課題 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験にするか、レポートにするかは授業の進捗および履修状況をもとに決定する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>この授業は総合的な内容であるから、毎時間ごとに必要に応じて参考文献を紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しない</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化 Iー国際理解をめざして	0 2	後 期	2 単位	野尻 亘
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>今日、日常生活においても、産業活動においても国際的な交流はますます盛んとなっている。しかし、現実の世界では、一方では、地域紛争や諸民族の対立、地球規模での環境問題もますますはげしくなっている。</p> <p>このような中で、まず私たちが大学生として、世界市民として、国際的な諸問題をどのように理解していったらよいのか。具体的なテーマをもとに解説していくこととしたい。</p> <p>同時に、大学入学直後のガイダンスをかねた内容とする。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本と外国の大学の違い 2. 大学生としての生き方と情報処理のしかた 3. 高校までとは違う大学生としての勉強のしかた 4. 図書館の効果的な使い方 5. アメリカ大都市における民族問題 6. モノカルチャー経済からの自立 ラテンアメリカ諸国の苦悩 7. アフリカ 人口・食糧不足・難民問題 8. ヨーロッパ EUへの地域統合への模索 9. CIS シベリア開発の困難 10. 急成長するアジア経済 11. 日本、東と西・北と南、多様な自然環境と文化 12. 日本、高度経済成長から持続的発展へ 今後の私たちの課題 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験にするか、レポートにするかは授業の進捗および履修状況をもとに決定する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>この授業は総合的な内容であるから、毎時間ごとに必要に応じて参考文献を紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しない</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化 I (インドネシアの文化概観)	01 02	前 期 後 期	2単位 2単位	北 野 正 徳
[講義概要・学習目標] この講義では、インドネシアの文化について、その特徴となっているいくつかの事柄を 取り上げて概観してゆきたい。それらは、具体的には、東南アジアの文化地図におけるイ ンドネシア、インドネシア文化を構成している多様な民族や言語、現在私たちが知るよう なインドネシア文化が形成された歴史的過程、そして現代インドネシアの文化の姿など といった事柄である。これらの事柄を知ることから、今日のインドネシア文化をより身近な ものとして感じ・理解してゆくことを、この講義の目的としてゆきたい。従って、今日の インドネシアに見られる文化現象を、文芸、映画、音楽などの例をあげて紹介することも 試みてゆきたい。	[講義計画] 1 インドネシアへの導入 2 東南アジアの文化地図のなかでのインドネシア 3 多様なインドネシア文化（民族、言語、地方文化など） 4 「インドネシア」の形成（近代史の視点から） 5 今日のインドネシア文化の姿（文芸、映画、音楽など）			
[成績評価の方法] 期末頃の授業時間を使って、特定のテーマを定めて論述してもらいたい。また、必要に 応じて小レポートなども提出してもらおうこともありうる。	[参考文献] 綾部恒雄・石井米雄編 『もっと知りたいインドネシア第2版』 弘文堂 石井米雄（監修） 『インドネシアの事典』 同朋舎 池端雪浦編 『新版世界各国史6 東南アジア史Ⅱ 島嶼部』 山川出版社 小池誠 『インドネシア 島々に織り込まれた歴史と文化』 三修社 松野明久編 『インドネシアのポピュラーカルチャー』 めこん			
[教科書] 特になし。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化 I —「韓国」入門—		前 期	2単位	ジョン 田 ソンヒ 星 姫
[講義概要・学習目標] 現代につながる韓国人の生活や文化について、その歴史的背景を理解す ることを目標にする。	[講義計画] 1. 朝鮮史の時代区分について 2. 生活文化（衣・食・住など） 3. 精神文化（朝鮮人と宗教・儒教など） 4. 前近代における日朝文化交流			
[成績評価の方法] 期末試験、出席率（授業中に小レポート提出など）の配点。	[参考文献] 井上秀雄・鄭早苗『韓国・朝鮮を知るための55章』明石書店 宋連玉他訳『韓国の歴史・国定韓国高等学校歴史教科書』明石書店 小川晴久『朝鮮文化史の人びと』花伝社 その他、授業中、適宜紹介する。			
[教科書] 特になし。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅰ —近代日韓比較文化史		後 期	2 単位	チョン ソンヒ 田 星 姫
【講義概要・学習目標】 近代以降、特に 19 世紀後半の日韓関係を比較文化史の視角から検討する。	【講義計画】 1. 近代日韓の相互認識 朝鮮人の日本認識 日本人の朝鮮認識 2. 近代日韓両国における風俗の西洋化 19 世紀後半の「断髪」問題			
【成績評価の方法】 期末試験、出席率（授業中に小レポート提出など）の配点。	【参考文献】 大江志乃夫『東アジア史としての日清戦争』立風書房 中塚明『近代日本の朝鮮認識』研文出版 アーソン・グレブス著・河在龍他訳『悲劇の朝鮮』白蹄社 劉香織『断髪』朝日新聞社。その他、授業中、適宜紹介する。			
【教科書】 特になし。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅱ（アメリカン・ドリーム）	0 1 0 2	前 期 後 期	2 単位 2 単位	谷 本 泰 三
【講義概要・学習目標】 「アメリカン・ドリーム」をテーマにして初期のアメリカの歴史を見て行く。最初ヨーロッパからアメリカ大陸へ移住してきた人達はどうな夢を抱いて、果てしない大海、大西洋を渡ったのだろう。夢を実現しようとして、どの様な努力をし、どの様な苦勞があったのだろう。栄光と挫折が交錯する様子を、見ながら初期の歴史を辿る。「アメリカン・ドリーム」を許されなかった人たちの現状にも注目する。	【講義計画】 1 序論 2-3 アメリカン・ドリームの外に立たされていた人たち 4-6 Puritan たちの夢と現実 7-10 Puritanism からの離脱 新国家建設への夢 11-12 独自の文化樹立への夢 13 予備			
【成績評価の方法】 期末試験	【参考文献】			
【教科書】 Winton U. Solberg (著) A History of American Thought and Culture (金星堂) 谷本泰三 (著) 「講義アウトライン」				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅱ (映像で見る世界の民族)		前期	2単位	尾本 恵市
[講義概要・学習目標] 本学の理念である世界市民の養成のために、われわれ日本人は世界の多様な民族や文化についてもっと知らねばならない。そのための第一歩として、「百聞は一見にしかず」というように、映像によって世界の様々な民族集団の生活や文化を視覚的にとらえるのがよい。文化の多様性のみならず、ヒトは様々な環境条件のもとで身体的にも著しい地理的多様性を示す。この授業では、学生に、ヒトの文化的・身体的多様性に関心を持ち、人種や民族に対する差別がいかに根拠のないものであるかを理解してもらうことを目標とする。	[講義計画] 原則として毎週、世界の様々な民族集団に関するビデオ映像記録を見て、出席票に質問または感想を書き提出する。質問には、次の週にできるだけ答えることによって、教師と学生間のコミュニケーションを図る。なお、前期はとくにアフリカとヨーロッパ地域、また後期にはとくにアジア・太平洋およびアメリカ地域に重点をおき、主として伝統的文化について見る。			
[成績評価の方法] 試験は行わず、出席およびレポートによって採点する。	[参考文献] 川田順造 編「アフリカ入門」 新書館(1999)			
[教科書] 未定。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅱ (アジア・太平洋の民族)		後期	2単位	尾本 恵市
[講義概要・学習目標] 本学の理念である世界市民の育成のために、われわれ日本人は世界の多様な民族や文化についてもっと知らねばならない。そのための第一歩として、「百聞は一見にしかず」というように、映像によって世界の様々な民族集団の生活や文化を視覚的にとらえるのがよい。文化の多様性のみならず、ヒトは様々な環境条件のもとで身体的にも著しい地理的多様性を示す。この授業では、学生に、ヒトの文化的・身体的多様性に関心を持ち、人種や民族に対する差別がいかに根拠のないものであるかを理解してもらうことを目標とする。	[講義計画] 原則として毎週、世界の様々な民族集団に関するビデオ映像記録を見て、質問や感想を出席票に書き提出する。次の週には質問に答え、問題点について解説する。なお後期の授業は特にアジア・太平洋およびアメリカ地域に重点をおき、先住民や伝統的な集団の文化を扱う。			
[成績評価の方法] 試験は行わず、出席点およびレポートによって採点する。	[参考文献] その都度指定する。			
[教科書] なし。必要な資料があればその都度配布する				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅱ アメリカン・ホラーの世界		前 期	2単位	藤 森 かよ子
【講義概要・学習目標】 現在、アメリカ合衆国ほど、ホラー小説やホラー映画が隆盛をきわめている国はない。なぜだろう？ホラー小説やホラー映画の元祖は、19世紀初期に生まれ末期に頂点を迎えたイギリスのゴシック小説であるが、アメリカにおいて大きく花開き、今や大衆文化の一大ジャンルとなっている。 本講義ではホラー小説やホラー映画を通して、アメリカ文化を考える試みである。「あなたが恐がっているもの」は、あなたを説明する。アメリカの恐怖と不安と強迫観念を考えることは、日本のそれらを考えることにもなるだろう。	【講義計画】 第1週：ホラーとは何か？ホラー物語小史（1） 第2週：ホラーとは何か？ホラー物語小史（2） 第3週：死——「早すぎた埋葬」「ベット・セメタリー」 第4週：自分の中の知らない自分——「ウィリアム・ウィルソン」「サイコ」 第5週：悪魔——「若きグッドマン・ブラウン」「エクソシスト」 第6週：幽霊——「ねじの回転」「シャイニング」 第7週：吸血鬼・お化け一般——「ドラキュラ」「地球最後の男」 第8週：超能力——「不思議な旅人」「キャリー」 第9週：動物——「鳥」「クワジョ」 第10週：狂気——「ミスティ」「ミザリー」 第11週：まとめ——アメリカ文化とホラー その他の週は、予備として予定を空けておく。事情により扱うトピックが入れ替わることがある。			
【成績評価の方法】 出席と試験成績によって総合的に評価する。	【参考文献】 風間賢二『モダン・ホラーとU.S.A.』（北泉社、1985） 風間賢二『ホラー小説大全』（角川書店、1997） 小池滋『ゴシック小説を読む』（岩波書店、1999） エリック・S・ラブキン著／若山正訳『幻想と文学』（東京創元社、1989） ツヴェタン・トドロフ著／三好郁朗訳『幻想文学論序説』（東京創元社、1999） 荒俣宏・石上三登志・小隅黎・谷口高夫『大衆小説の世界』（九芸出版、1978）			
【教科書】 講義担当者作成のプリントを使用する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅲ 古代・中世の日本神話	01 02	前 期 後 期	2単位 2単位	三 浦 俊 介
【講義概要・学習目標】 日本神話と言えば『古事記』『日本書紀』のそれを連想するが、本講義では、日本の南島(奄美・沖縄)に今も息づく神話伝承に留意しつつ、日本神話を広い視野から多角的に捉えて比較検討していきたい。考察の対象を鎌倉時代の神道書や室町時代の本地物語にも広げてみた。中世神話とはどのような神話なのか。講義を楽しみにしてもらいたい。	【講義計画】 1 神と人と 2・3 南島神話 4・5 古風土記 6～8 記紀神話 9 中世神話（1）神と仏と 10 中世神話（2）中世日本紀 11 中世神話（3）第六天魔王 12 中世神話（4）神道集 13 中世神話（5）本地物語			
【成績評価の方法】 ①定期試験によって評価する。 ②出席も考慮に入れる。	【参考文献】 神野志隆光『古事記と日本書紀』（講談社現代新書） 山本ひろ子『中世神話』（岩波新書） 福田晃 『神話の中世』三弥井書店 その他については講義中に随時紹介する。			
【教科書】 教科書なし 参考書を参照のこと 毎回プリントを配布して講義する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅲ 近代インド社会の諸相	01	前期	2単位	村 上 昌 孝
	02	後期	2単位	
〔講義概要・学習目標〕 インドでは、古代以来、ブラフマニズムに由来する宗教であるヒンドゥー教が優勢を保っていたが、中世以後、西北インドから、徐々にイスラム教の影響を受けるようになった。イスラム教徒のインドへの進入や支配を通じて、近代には、北インドを中心に、ヒンドゥー教とイスラム教とが混在するに至った。二つの全く性質の異なる宗教が併存する状況下で、両者間の摩擦が生じるのはもちろんのことだが、これらを融合しようとする試みもなされた。宗教を原因として発生したさまざまな事例を検討することを通じて、異文化併存の問題を学習することを目的とする。	〔講義計画〕 ヒンドゥー教とイスラム教に関する概説の後、中世から近代にかけて、両者がインド社会に併存するようになった過程を取り上げる。その後、ヒンドゥー教とイスラム教とが併存することによって生じた、近代インド社会での摩擦や融合の努力など、個々の事例を検討していく。			
〔成績評価の方法〕 平常点とレポートにより評価する。	〔参考文献〕 荒松雄『ヒンドゥー教とイスラム教 ―南アジア史における宗教と社会―』、東京、1977。			
〔教科書〕 講義の際に資料を配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅲ 民族と紛争	01	前期	2単位	小 池 誠
	02	後期	2単位	
〔講義概要・学習目標〕 今日、世界中あちこちの異なる民族の間で、文化（言語・宗教）の違いを理由として深刻な対立と紛争が勃発している。民族が異なると共に生きていくことが困難であると語られることも多い。本当に民族の共存は不可能なのか？世界各地で勃発している民族対立と紛争を例に取り上げて、いかなる状況の下で異なる民族の間で憎悪や対立が生まれ、そしてそれがどんな道筋をたどって紛争や内戦にまで発展していくのか、考えていきたい。21世紀に入っても、なお人類が直面する民族紛争の問題を文化人類学の視点から解き明かしていく。この問題を「遠い外国」の話ではなく、より身近なこととして考えてもらうために、日本国内の民族問題も取り上げたい。受講者の関心と理解を深めるために、できるかぎりビデオなどの視聴覚教材を利用する予定である。	〔講義計画〕 1 民族とは何か？（民族問題へのアプローチ） 2 日本の先住民、アイヌ 3 インドネシアの民族問題（アチェ・アンボン） 4 東ティモール問題 5 旧ユーゴの民族問題（ボスニア・コソボ紛争） 6 北アイルランド問題 7 アフリカの民族紛争（ルワンダ内戦） 8 日本のなかの「外国人」			
〔成績評価の方法〕 学期末試験の成績を基本にして評価する。ただし、必要に応じて提出を求める小レポートの成績も加味する。	〔参考文献〕 講義のなかで必要に応じて紹介する。			
〔教科書〕				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅲ (日英文化交流史)	01 02	前 期 後 期	2単位 2単位	遠 山 淳
【講義概要・学習目標】 イギリス文化が日本に与えた影響について学ぶ。日英文化交流史を講じ、英国や米国の背景にあるアングロ・サクソン文化の特性を求める。幕末・明治維新以降、イギリスは日本に大きな影響を与えてきた。この講義では、ユーラシア大陸の東西の両端にあって、一見似た環境にある両国の類似点と相違点を求めてみたい。また、日本人側にある／あった「イギリスびいき／イギリス嫌い」についても考えてみたい。	【講義計画】 1. 英国の成り立ち：地理と歴史 2. 薩摩藩士の英国留学 3. 岩倉使節団 4. 日英同盟 5. 太平洋戦争と戦後 6. 「追いつき・追い越せ」が終わって			
【成績評価の方法】 期末に試験またはレポートを課し、総合的に評価する。	【参考文献】 授業中に紹介する。			
【教科書】 今井 宏著『日本人とイギリス―「問いかけ」の軌跡』筑摩書房、1994				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅳ フランス文学とその背景		前 期	2単位	中 所 聖 一
【講義概要・学習目標】 わたしたちが一つの国（地域）の文化を理解しようとする際、現在、表層に現れている現象を解釈する他に、そこに残されてきた、いわゆる古典を知るという方法も有効であるに違いありません。この授業では、フランス文学の基盤であるケルト文化、ギリシア・ローマ文化、そしてキリスト教を意識しつつ、18世紀までの主要作品を概観します。個々の作品解釈にとどまらず、それらを通して、その時々の社会および思想的背景をみなさんに汲み取ってもらいたいと思います。それゆえ、授業で取り挙げる作品は必ずしも純粋な文学作品とは限らず、時事的なもの、いくぶん哲学的なものも含まれますが、作品のタイプに応じて、文学作品分析のモデルを、あるいは、語られる思想の意味するところを提示してゆくことになります。それらをあくまでも大きく、流れとして把握することによって、フランス文化（フランス的思考）を理解してもらいたいと考えています。	【講義計画】 ①フランス文学の基盤 ②伝説から物語へ ③ルネサンス期におけるユマニズムと荒唐無稽 ④「理性」と「情念」 ⑤啓蒙思想と教育小説			
【成績評価の方法】 必ず読んでもらう作品（3～4作）を指定し、それぞれについてのレポートを、各指定時期までに提出してもらいます。それに出席状況を加味して、総合評価します。	【参考文献】 渡辺一夫・鈴木力衛 著、『増補 フランス文学案内』、岩波文庫。他は、授業時に紹介する。			
【教科書】 なし。随時、プリントを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者																												
世界の文化IV (芸術・言語・西俗観の比較)	01 02	前 期 後 期	2単位 2単位	テレンス オブライエン Terence J. O'Brien																												
[講義概要・学習目標] This course is a series of lectures in English. However, I will try to make the course easy to understand so if you have a little confidence in your English, why don't you try to listen to these lectures? The aim of the course is to give students an insight into some differences between the countries of Japan, the UK and the USA. I will talk about their cultures, their societies, their art, and their social values. Students are expected to listen carefully and to take notes during the lectures. Students should also think carefully about the points raised in the lectures.	[講義計画] <table> <tr> <td>1</td> <td>Introduction</td> <td>7</td> <td>Social history (i)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Japan - UK, a comparison</td> <td>8</td> <td>Social history (ii)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Churches</td> <td>9</td> <td>The start of pop music</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Houses</td> <td>10</td> <td>Art (i)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Bathrooms</td> <td>11</td> <td>Art (ii)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Test</td> <td>12</td> <td>Time</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>13</td> <td>Test</td> </tr> </table>				1	Introduction	7	Social history (i)	2	Japan - UK, a comparison	8	Social history (ii)	3	Churches	9	The start of pop music	4	Houses	10	Art (i)	5	Bathrooms	11	Art (ii)	6	Test	12	Time			13	Test
1	Introduction	7	Social history (i)																													
2	Japan - UK, a comparison	8	Social history (ii)																													
3	Churches	9	The start of pop music																													
4	Houses	10	Art (i)																													
5	Bathrooms	11	Art (ii)																													
6	Test	12	Time																													
		13	Test																													
[成績評価の方法] Students' grades will be calculated from (i) attendance and (ii) from two tests. In these tests you will write essays in English, but you may use your class notes and your dictionaries.	[参考文献]																															
[教科書] I will give you some prints during each lesson.																																

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化IV (映画の歴史・映像表現論Ⅰ)	01 02	前 期 後 期	2単位 2単位	水 口 薫
[講義概要・学習目標] 人間は、言語、文字、絵画、写真のメディアを発明、記録表現してきた。そして、これらのメディアと違い、時間経過を記録、再生できる映画（映像）が誕生して一世紀が過ぎた。映画は、コミュニケーション（伝達）の手段として、表現方法、映画言語を生みだし、芸術が生まれた。そこには、民族の歴史、文化、習慣が色濃く現れている。 本講義では、動く絵の原理、映画の発明、その歴史、映画言語を学び、映画を見ることによって、人間を異文化を理解するためのメディア・リテラシー（映像の読み書き能力）を身につけることをめざす。	[講義計画] 「映画の歴史」 1. 動く映像とは？ 目の残像現象について 2. 映画の発明 エジソンとリュミエール兄弟 3. 映画限とは？ グリフィスとエイゼンシュテイン 4. 映画の発達 サイレントからトーキーへ 5. 映画のジャンル 6. 劇映画と記録映画 レニ・リーフェンシュタール 7. 映画監督・作家について チャップリン 8. 日本映画 溝口健二、小津安二郎、黒澤明 9. 映画のスタッフ キャメラマン宮川一夫 10. メディア・リテラシーとは？			
[成績評価の方法] 出席を兼ねた小テスト（適時）とレポート形式の定期試験にて総合評価。小テストの欠席3回の者は不合格。	[参考文献] 『映画の教科書 どのように映画を読むか』 ジェイムズ・モノコ（著）岩本憲児、内山一樹、杉山昭夫他（編）（フィルムアート社） 『メディア・リテラシー マスメディアを読み解く』 カナダ・オンタリオ州教育省（編） FCT（市民のテレビの会）（訳）（リベルタ出版） その他、講義のときに提示する。			
[教科書] 適時、プリントを配布。受講者多数の場合は変更。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化IV (キリスト教音楽の変遷 I)		前 期	2 単位	堀江光一
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>ミサ曲、クリスマス・カロルなど、キリスト教に音楽は欠かせません。この講義では、聖書の時代から今日までの、聖歌・賛美歌の歴史を辿ってゆきます。「ことば(words)」と「ふし(tune)」が結びついて生まれる、すてきな音の世界に、耳を傾けませんか？</p>	<p>[講義計画]</p> <p>時代背景や音楽の仕組みを紹介しながら、いろいろな曲を聴きます。音源は録音物が主ですが、週によっては、チャペルのパイプオルガンも使います。この時間では毎回音楽を聴くので、授業中勝手にしゃべりたい人は来ないで下さい。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末に、レポートまたは作品を提出してもらいます。出席は採りません。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて紹介します。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特になし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化IV (キリスト教音楽の変遷 II)		後 期	2 単位	堀江光一
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>キリスト教音楽は、「西洋式」音楽の一方の親でもあります。この講義では、ドレミやハ長調の成り立ち、バロックからロックに至る様式の変遷など、「西洋式」音楽が育てられた歴史を辿ります。すてきな音の世界に、耳を傾けませんか？</p>	<p>[講義計画]</p> <p>時代背景や音楽の仕組みを紹介しながら、いろいろな曲を聴きます。音源は録音物が主ですが、週によっては、チャペルのパイプオルガンも使います。この時間では毎回音楽を聴くので、授業中勝手にしゃべりたい人は来ないで下さい。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末に、レポートまたは作品を提出してもらいます。出席は採りません。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて紹介します。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特になし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化IV (樋口一葉の小説を読むI)		前 期	2単位	佐藤慶子
[講義概要・学習目標] 二十四才で没した、明治時代の女性流作家、樋口一葉の「I=III」を講む。彼女の残した二十二編の短編小説中、最も完成度の高い作品である。彼女の描いた人間の生き方を辿りながら、我々の生き方を考え直してみたい。		[講義計画] 担当範囲を割り当て発表させ、質疑応答と討論で授業を進める。発表者以外にも意見を求める。積極的に参加してほしい。		
[成績評価の方法] 毎日、最初と十分間2.5の日の講義に備え、その日のレポートを書かせ、平常点とする。出席重視。期末試験に授業中の発表、態度を加算する。		[参考文献] 『樋口一葉全集・第二巻』筑摩書房		
[教科書] 樋口一葉『たけくらべ・I=III』角川文庫				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化IV (樋口一葉の小説を読むII)		後 期	2単位	佐藤慶子
[講義概要・学習目標] 二十四才で没した、明治時代の女性流作家、樋口一葉の「十三夜」を講む。彼女の残した二十二編の短編小説中、「たけくらべ」が最もよく知られているが、「十三夜」も、と読まなければならない佳作である。彼女の描いた人間の生き方を辿りながら、我々の生き方を考え直してみたい。		[講義計画] 担当範囲を割り当て発表させ、質疑応答と討論で授業を進める。発表者以外にも意見を求める。積極的に参加してほしい。		
[成績評価の方法] 毎日、最初と十分間2.5の日の講義に備え、その日のレポートを書かせ、平常点とする。出席重視。期末試験に授業中の発表、態度を加算する。		[参考文献] 『樋口一葉全集・第二巻』筑摩書房		
[教科書] 樋口一葉『たけくらべ・I=III』角川文庫				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化IV 大学一起源・歴史・現実	01 02	前 期 後 期	2単位 2単位	後 藤 邦 夫
【講義概要・学習目標】 現在われわれが「大学」とよぶシステムは、正確にいうと「カレッジ」と「ユニバーシティ」である。それは西欧の古典文化を基盤として11世紀から12世紀にかけてアラブ・北アフリカ・イベリアのイスラム文化の影響のもとで西欧中世のカトリック世界で生まれた。そのような大学は、社会の「近代化」と「工業化」の中で存続が危ぶまれたこともあったが、「改革」を繰り返すことで生き延び、さらに非西欧世界に拡がり、現代の世界で高等教育と知的活動を担う重要な組織となっている。このようにして、社会と学問の変動のなかで再生を繰り返し、変化に対応するダイナミズムを発揮してきた大学は、「デジタル革命」と呼ばれる現在、新たな挑戦に直面している。歴史的叙述を通して諸君が今学びつつあるシステムと「知の在り方」について考えを深めてもらいたい。	【講義計画】 以下のテーマをそれぞれ1、2回ずつ扱う。 (1) 発端としての古典古代とヘレニズムの学問文化。 (2) イスラム文化と西欧中世における「大学の誕生」。 (3) 「聖俗革命」：近代化と大学。 (4) 産業革命と大学：科学技術のインパクト。 (5) 多様性と普遍性、および卓越性と大衆性：アメリカの場合。 (6) 国家による大学の設立と支配：日本の場合。			
【成績評価の方法】 期末のテストの結果が中心であるが、テーマを決めてレポートを課し、あわせて評価する。	【参考文献】 入手し易いもののみを挙げる。他は授業中に示す。 ベン・デーヴィッド「学問の府」 ハスキンス「中世の大学」 アシュビー「産業革命と大学」 中山 茂「帝国大学の誕生」			
【教科書】 使用しない。必要に応じプリント等を配付する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化IV（日本近代文学における恋愛）	01 02	前 期 後 期	2単位 2単位	青 田 寿 美
【講義概要・学習目標】 古来より文学と〈恋愛〉は密なる関係にあった。男女の情愛を一つの文化現象として捉えるならば、文学は、時代と〈恋愛〉が織りなすドラマを描き続けてきたといえる。 明治期の日本において〈恋愛〉という言葉が広く用いられるようになり、以後、〈恋愛〉は、それが表象するところの精神性を問い（時としては〈肉体〉と〈精神〉を秤にかけ）ながら、〈愛〉〈恋〉〈性〉等の規範を形作っていく。日本近代文学がどのように〈恋愛〉を表現し、男女の〈恋愛〉のありようを模索してきたのか、さらには、〈恋愛〉というテーマが、明治以降の文学においてどのように発展し変容を遂げ、展開をみせてくるのかを追尋する。〈恋愛〉をめぐる現代的問題にも照明を当てたい。	【講義計画】 1. “love”の翻訳語としての〈恋愛〉 ～明治以前・以後～ 2. 〈愛〉〈恋〉〈性〉etc.をめぐるパラダイム変換 2. 1. 魂より発する〈愛〉 2. 2. 〈肉欲〉の復権 2. 3. エゴイズムを離れた〈愛〉 2. 4. 倒錯する〈恋情〉 3. 各論			
【成績評価の方法】 レポートによる。	【参考文献】			
【教科書】 特に指定しない。適宜プリントを配布する。 なお、受講者は予め“いちおし”の恋愛小説をその推挙の理由とともに考えておくこと。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅳ（平安文学とジェンダー）		後 期	2 単位	深 澤 徹
[講義概要・学習目標] 日本の古典文学の代表とされる平安朝文学は、主に女性によって書かれたものとして知られている。世界の文学の歴史からすると、これは極めて異常である。ではなぜこの当時、女性が文学をも含めた文化活動の主導権を握ったのか。その辺の事情を、当時の社会構造をふまえながら明らかにし、そうした背景が、ここの文学テキストにどのように影響を与えていったについて論ずる。扱うテキストは、主に「日記文学」だが、必要に応じてその周辺のテキストにも言及していくつもりである。	[講義計画] 授業の最初の時期に、詳細なシラバスを配布する。			
[成績評価の方法] 試験の成績と出席状況を合わせて評価する。	[参考文献] 風巻景次郎『中世文学の世界』（岩波文庫）			
[教科書] 中西進『日本文学史』（講談社学術文庫）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅳ フランスの近代小説		後 期	2 単位	中 所 聖 一
[講義概要・学習目標] 小説の世紀であったとも言える19世紀から、小説が読まれなくなったと言われる現代にかけての主要な小説作品を読み解いてゆきます。それによって、小説の内容や技法そのものの変遷はもちろん、人間観・世界観の変化、また、特に20世紀における希望の困難さが鮮明になるでしょう。この授業では、基本的にフランスの小説という枠内で講義を行いますが、小説の多くは、個々の作品解釈にとどまらず、その時々のおよび思想的背景を知ることが要求されます。それゆえ、小説ではない作品（かなり哲学的な作品）も扱いますが、作品に即して、文学作品分析のモデルと多様性を、あるいは、語られる思想の意味するところを理解していただきたいと思います。	[講義計画] ①ロマン主義の小説 ②リアリズムおよび自然主義の小説 ③ベル・エポックの文学 ④シュール・リアリズム ⑤実存主義の文学 ⑥ヌーヴォー・ロマンとその後			
[成績評価の方法] 必ず読んでもらう作品（3～4作）を指定し、それぞれについてのレポートを、各指定時期までに提出してもらいます。それに出席状況を加味して、総合評価します	[参考文献] 授業時に紹介する。			
[教科書] なし、随時、プリントを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会 I (日本文化論の功罪)		後期	2 単位	深 澤 徹
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>ナショナリズムには様々な側面があるが、そのもっともソフトな形態に「文化としての日本主義」がある。文化を通してナショナリズムを喚起し、補強していくということがなされるのだ。本講義では、その「文化としての日本主義」について様々な歴史過程のなかで、それが果たした役割について論ずる。扱う対象は主に戦後の日本社会で行われた「日本文化」についての様々な言説だが、適宜時代を遡らせて、「国民国家」の創生へ向けての日本の足取りをたどることになるだろう。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>授業の最初の時期に、詳細なシラバスを配布する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験の成績と出席状況を合わせて評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>南博著『日本人論—明治から今日まで—』（岩波 1994）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に定めない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会 I (近現代大阪の歴史)	0 1	前 期	2 単位	佐 賀 朝
	0 2	後 期	2 単位	
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>明治維新～現代までの大阪の歴史を概述する。 その際、近代における巨大都市としての大阪の形成・展開とそれが抱えた矛盾という点を基軸にすえて論じる。また大阪の社会を、そこに日々働き、暮らす人々の労働・生活の場として捉え、民衆の視点からその歴史的展開を見ていく。 以上の作業を通じて、われわれが日々暮らし学んでいる場である現代大阪の歴史的成り立ちとその問題点について考えるとともに、歴史学の基礎的な方法を実践的に学ぶことをめざす。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>おおむね以下の内容に沿って進める。</p> <p>明治前期の大阪 近世城下町の解体／近代都市の形成／資本主義の形成／移行期の都市社会 明治後期の大阪 大阪市の成立／近代産業の発展／近代都市の建設／都市社会問題の発生 大正期の大阪 世界大戦と大阪経済／都市問題の激化／都市政策の形成／社会運動の発展 昭和戦前・戦中期の大阪 「大大阪」の誕生／モダン都市大阪／都市問題の深刻化／戦争と大阪 戦後復興期の大阪 占領下の大阪／都市自治の新動向／復興期の市民生活 高度成長期の大阪 大阪と高度経済成長／巨大開発と公害問題／経済成長と都市社会 現代の大阪 万国博覧会と大阪／革新自治体の時代／新しい市民運動／現代の大阪</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席・受講態度、小テスト、定期試験などにより総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>『新修大阪市史』第5巻～第9巻（1991～95年） 芝村篤樹『開—都市思想のバイオニア—』（松籟社、1989年） 小山仁示・芝村篤樹『大阪府の百年』（山川出版社、1991年） 原田敏一『日本近代都市史研究』（思文閣出版、1997年） 広川禎秀編『近代大阪の行政・社会・経済』（青木書店、1998年） 芝村篤樹『日本近代都市の成立—1920・30年代の大阪—』（松籟社、1998年）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特定のものとは定めない。必要な資料は授業のなかで随時、配付する。</p>	<p>その他、授業のなかで随時、提示する。</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会 I 20世紀のヨーロッパ I		前 期	2 単位	山 田 義 顕
[講義概要・学習目標] 19世紀は「ヨーロッパの世紀」といわれる。いわばヨーロッパは、政治的、経済的、文化的に世界の中心に位置していたのである。しかし、このヨーロッパも、第一次世界大戦を契機に次第に「没落」の傾向を示すことになる。 授業では、こうしたヨーロッパの変容を、政治、社会、文化の問題を中心にして1930年代までたどることとする。この時期がいかに波瀾に富んだ時代であったかを理解してもらえればと思う。	[講義計画] ◇第一次世界大戦前後のヨーロッパ ①帝国主義時代の国際関係：1870年から1914年までのヨーロッパの列強の動向と、大戦にいたる過程を考察する。 ②第一次世界大戦の原因と展開：戦争責任問題、ヨーロッパの没落などを含め、大戦の歴史的意義について考察する。 ③ヴェルサイユ体制の成立と崩壊：1919年から1933年にかけてのヨーロッパ国際関係を、とりわけドイツ問題を中心に論じる。またこれと関連して、ドイツ・ナチズムの成立と発展についても言及する。			
[成績評価の方法] 出席および学期末試験によって評価する。	[参考文献]			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会 I 20世紀のヨーロッパ II		後 期	2 単位	山 田 義 顕
[講義概要・学習目標] 20世紀は「戦争と成長の世紀」であった。とりわけ世紀前半は、二度にわたる大戦によって大きく規定されることになった。 後期では、30年代から40年代のヨーロッパを中心に、社会の変動を論じる。そのさい、ナチス・ドイツの対外政策、ユダヤ人絶滅政策にも触れる。20世紀かかえた新しい問題について理解してもらえればと思う。 た	[講義計画] ◇第二次世界大戦前後のヨーロッパ ①1930年代のヨーロッパとドイツ：30年代のヨーロッパ国際関係を、ヒトラーの政権掌握から大戦勃発と関連づけて論じる。 ②第二次世界大戦：ヨーロッパ諸国が大戦をどのように捉えていたかを、風刺漫画などを素材にして考える。 ③戦後のヨーロッパ：両大戦間と比較しながら、戦後ヨーロッパの状況変化について考察する。			
[成績評価の方法] 出席および学期末試験によって評価する。	[参考文献] 講義中にそのつど紹介する。			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会 I (ドイツの都市と生活文化) — ドイツ、歴史と都市と文化—		前期	2 単位	種 田 明
[講義概要・学習目標] 「ドイツは森の国である。その森に守られて、各地にたくさんの都市がある。ドイツの都市は、それがどんなに小さくとも個性があり、独特の顔がある。それでいてドイツの都市は、構造上も精神的にも、普遍的な共通性を有している。そしてそこに住む人びとは、独自のドイツ的生活文化を作りあげている。」(小塩節『ドイツの都市と生活文化』より) 本講義は、ドイツ・ヨーロッパを中心に歴史と社会を漫歩してみようとするものである。いわゆる「常識」的理解から一歩踏み出し、ドイツ・ヨーロッパから日本と日本人(自分自身)を考える切っ掛けを掴んでほしい。	[講義計画] テキストに沿って行う； I ドイツとドイツ人 II 日々の生活 III 都市・自然・生活文化 IV 厚みのある生活文化を また、適宜VTR(英語・独語)を使い、現実のドイツ・ヨーロッパの現在を見ていく予定である。			
[成績評価の方法] レポート (A4版ワープロ打ち、40字X30行X2枚) または、小テスト10回(受講者数による)	[参考文献] 池内紀(監修)『読んで旅する世界の歴史と文化 ドイツ』新潮社 1992年 その他、講義時に指示する。			
[教科書] 小塩節『ドイツの都市と生活文化』講談社(学術文庫)1993年				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会 I 現代のドイツ		後 期	2 単位	種 田 明
[講義概要・学習目標] ベルリンの壁が崩壊し、歴史的なドイツ統一が実現してから10年、昨夏には首都移転も完了した。この間ドイツは言わず、ヨーロッパも世界もそして日本も激動の渦中にある。 ドイツの歴史(過去)と社会(現代)を概観する本講義のサブテーマは、今戦後最大の転機に立つ日本と日本人(自分自身)のこれからを考えることである。現代の日独比較に興味をもつ、意欲ある学生の聴講を期待する。	[講義計画] イントロダクション 1. } 『ドイツの歴史』 第10章 ケーテの時代 2. } 3. } 第14章 七命と難民の時代 4. } 終章 ヨーロッパ連合の一員として 5. } 6. } 7. } 8. } 『ライン河』 第2章 疾風怒濤 9. } 10. } 第5章 独仏ライン同盟 11. } 12. } 以上を解説し検討しておく予定である。			
[成績評価の方法] レポート(1200字程度)による。 10のテーマ(講義初回に示す)から1つを選択し、最終講義時に提出してもらう。	[参考文献] 加藤 雅彦 ほか編『事典・現代のドイツ』大修館書店、1998年 ほか講義中紹介する。			
[教科書] 阿部 謙也『物語 ドイツの歴史』中公文庫、1998年 加藤 雅彦『ライン河』岩波新書、1999年				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅰ（李氏朝鮮時代の生活と文化）	01 02	前期 後期	2単位 2単位	徳 成 外志子
<p>〔講義概要・学習目標〕 昨年度に引き続き、李氏朝鮮時代の諸相を集中的に取り上げていきたい。現代の朝鮮半島の風俗、習慣、思想などは、直接的にはこの時代に形成されたと考えられるからである。韓国の家族・親族制度や風俗・習慣、人々の行動様式や価値観、北朝鮮の「儒教社会主義」と言われる現状など、歴史的に見てこそ理解できることが多い。本講義では、まず学習上必要な朝鮮半島の基礎的知識、及び李氏朝鮮時代の基本的特色を概観した後、本年度は主に朝鮮時代の諸社会・諸階層の生活と文化に焦点を当てて見ていきたい。</p> <p>朝鮮半島は日本に一番近い隣国でありながら、教育の中でもその歴史や文化については殆ど教えられず、せいぜい断片的な日朝関係の知識にとどまっている。日本的な価値観、尺度にのみ依拠して接すると、誤解・摩擦のもとになる。朝鮮半島は日本に最も近い隣国ではあるが、日本及び日本人とは似て非なることが多い。例えば、同じく儒教と言っても、日本では忠を重視するのに対して朝鮮半島では孝が重視されるし、日本では士と言えば武士を指したが、朝鮮では士は儒者を意味した。朝鮮半島の社会や人々は日本よりは中国と似た所が多いが、勿論中国とも似て非なる部分が多岐にわたる。朝鮮半島は日本や中国とは異なる独自の歴史と豊かな文化を持ち、その異なるところが、知れば知るほどおもしろいと感じるだろう。</p> <p>ビデオなどの映像資料も取り入れ、また近年の韓国社会の変化や日本との関係などにも留意して授業を進めていきたい。</p>	<p>〔講義計画〕 1. 朝鮮の地理、朝鮮史の時代区分 2. 李氏朝鮮時代の特色（両班官僚制国家） 一高麗時代までとの比較、及び日本・中国との比較を通して 3. 朝鮮時代の郡県制度、及び朝鮮時代の都市（首都漢城府、地方都市）と農村行政、商工業、市場 4. 朝鮮時代の身分制一両班、中人、常民、賤民 5. 朝鮮時代の女性、家族・親族制度 6. 思想、宗教 一儒教（朱子学）、仏教、民間信仰（巫俗、風水、鬼神） 7. 教育、科擧制度 8. 生活文化（衣食住、冠婚葬祭、年中行事）、伝統芸能、美術工芸など</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 学期末レポート、及び平常の出席と課題への取り組みを総合的に評価する。毎回出席して授業を聞いていないと、レポートが引当り不足になる恐れがある。今までの経験から、きちんと出席している学生のレポートに、やはり良いものが多い。</p>	<p>〔参考文献〕 ・宮嶋博史『両班（ヤンパン）』中公新書、1995。 ・伊藤聖人『暮らしがわかるアジア読本、韓国』河出書房新社、1996。 ・岸本美緒、宮嶋博史『世界の歴史12 明清と李朝の時代』中央公論社、1998 ・朝鮮史研究会編『新版朝鮮の歴史』三省堂、1995 ・『朝鮮を知る事典』平凡社、1986 その他、授業で適宜紹介する。</p>			
<p>〔教科書〕</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅱ（海域アジアの歴史を読む）		後 期	2単位	深 見 純 生
<p>〔講義概要・学習目標〕 この講義は「海域アジア社会」というものを考えながら歴史資料も読もうとする、ちょっと欲張った試みである。具体的には海のシルクロードに関わる歴史資料を読みながら、その様々な背景を考える。「陸域」中心史観によるシルクロード史でなく、「海域社会」という観点からアジアの地域間交易の歴史を見直す試みである。「陸域」中心の常識的な観念から自由になることによって、重要な事柄がいくつか見えてくるはずである。</p> <p>海のシルクロードの歴史を東南アジアを中心に見ていくことになる。海域社会の典型的な姿は東南アジアに見ることができる。地球上で唯一の「島の熱帯」の森と海が国際交易つまり海のシルクロードと結びついたからである。史料は東南アジアを中心とする海のシルクロードに関わるもので、できるだけ日本語訳されたものを配付し、解説を加える。</p>	<p>〔講義計画〕 1. 海域アジア世界と「島の熱帯」 海域アジア世界／東南アジア＝「島の熱帯」／モンスーン／海圏 付 海域アジア世界のなかの日本 2. 海のシルクロード成立以前 大秦（ローマ）の幻人 3. 海のシルクロードの成立 法顕の航海 4. マラッカ海峡の交易帝国 シュリーヴィジャヤ＝室利仏逝の時代 5. 広州の繁栄、アラブ・ペルシア商船の活躍</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 時々的小レポートと期末試験を総合して評価する。</p>	<p>〔参考文献〕 京都大学東南アジア研究センター編『事典東南アジア 風土・生態・環境』弘文堂 1997〔桃図R292.3〕 家島彦一『海が創る文明』朝日新聞社 1993 〔桃図A225.9〕 長沢和俊『海のシルクロード史：四千年の東西交易』中公新書 1989〔桃図A209〕 藤本勝次他『海のシルクロード』大阪書籍 1982 〔桃図A209〕 その他教室で時々指示する。</p>			
<p>〔教科書〕</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅱ（古代ジャワの歴史と社会）		後 期	2 単位	深 見 純 生
【講義概要・学習目標】 日本とだいたい同じ約二千年の歴史のある東南アジアのなかでもジャワではとくに高度な古代文化が発達した。世界最大の仏教遺跡として有名なボロブドゥル遺跡や東南アジアでもっとも古い書物である古代ジャワ語の『ラマーヤナ』はその象徴である。この講義ではこうしたジャワの古代文化を紹介しながら、その歴史と社会について考えていく。 ジャワ史の背景として生態学的な特徴はたいへん重要である。そのうえに展開した古代の歴史では統一国家の形成、政治と文化の中核の移動、アジア交易ネットワークのなかのジャワの中心性、王権論の展開、＜唯一神＞創造の試みのかずかずが重要なテーマとして浮かび上がってくる。余裕があれば権力の正統性と知識人の役割についても取り上げたい。	【講義計画】 1. 火山島の奇跡 — 居住最適地としてのジャワ 2. 王権の発生 3. 統一権力の形成 4. 王権思想 — ボロブドゥルの時代 5. 中部ジャワ時代の終焉 6. 「太平の閻婆」 — 交易ネットワークの中心 7. 征服王の時代 — 島嶼世界の盟主 8. 支配イデオロギー＝＜普遍原理＞を求めて			
【成績評価の方法】 時々の小レポートと期末試験を総合して評価する。	【参考文献】 京都大学東南アジア研究センター編『事典東南アジア 風土・生態・環境』弘文堂 1997〔桃園R292.3〕 池端雪浦編『変わる東南アジア史像』山川出版社 1994〔桃園223〕 デュマルセ、ジャック著 藤木良明訳『ボロブドゥール』学芸出版社 1996〔桃園522.3〕 その他教室で時々指示する。			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅱ（中華と「夷狄」）		前期	2 単位	原 山 煌
【講義概要・学習目標】 「東夷・南蛮・西戎・北狄」。これらは、「四夷」とよばれる中国周辺にいる人たち（「夷狄」）への呼称であった。それぞれ蛮人を意味する言葉で、もちろん、中国世界の漢人たちよりする表現である。 中国世界とその周辺地域における歴史の展開は、中華と自認する漢民族と、彼らから「夷狄」と呼ばれた人たちとの間に生じた葛藤によって動かされてきたとみることでもできよう。 この独特の概念の発生と変遷、そしてその2種の人々の関係のありようを歴史的に追究しよう。今日に至っても、こうした世界観の枠組みが、表情を変えながらも脈々伝わっているようにも見えるということまでを取り扱いたい。 講義は、毎回独立したテーマを設け、1回ごとに完了するやりかたを進める（「読み切り」方式でもいうべきか）。理解をたすけるために随時担当者作成のプリントを配布する。このように授業が進められるので、最初から聞いていないと、重要なテーマ設定・まえおきなどがぬけてしまい、内容が理解しえなくなる。だから原則として遅刻は認めない。	【講義計画】 1. 講義全体の構想 2. 中華とは？ 「夷狄」とは？ 3. 剽悍な「夷狄」、騎馬遊牧民 4. 匈奴の登場 5. 匈奴をどう見るか、どう扱うか 6. 中華と夷狄の共存 7. 東アジアをおおう秩序 朝貢体制 8. 「夷狄」が主人となる日 11. 華夷の逆転 12. 生き続ける華夷関係			
【成績評価の方法】 毎回授業終了時に、出席確認をかねた理解度確認のための小テストを行う。これは、授業担当者と受講生との、意思の疎通をはかる役割ももつ。この小テストの内容、すなわち、授業の主旨を理解しているかどうか、授業からどんな発想を得たのかなどを確認して、その積み重ねを評価の対象とする。原則として、この小テストだけによって成績評価を行う。	【参考文献】 間野英二等『内陸アジア』地域からの世界史6 朝日新聞社。			
【教科書】 特に指定しないが、配付する資料の「参考文献」欄にあげた文献類を是非一読してほしい。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅱ（モンゴル帝国を考える）		後期	2単位	原山 煌
<p>〔講義概要・学習目標〕 チンギス=ハーンとその後継者達によって未曾有の大帝国が建設された。それは、北アジアに興った騎馬遊牧民の歴史のなかで最も発展した時代であった。その支配下で、多くの新しい局面があらわれ、後世にまで大きな影響を及ぼすこととなった。まことにアジアの歴史はモンゴルの時代を抜きにして語ることはできない。 騎馬遊牧民の活動の頂点ともいべきモンゴル世界帝国時代の歴史をできるだけ多角的に考えて行くのがこの講義の目的である。モンゴル支配時代の意義は想像以上に大きいということになるだろう。 講義は、毎回ことなるテーマのもとに、1回ごとに完了するやりかたをとる（「読み切り」方式でもいうべきか）。理解をたすけるために随時担当者作成のプリントを配布する。このように授業が進められるので、最初から聞いていないと、重要なテーマ設定・まえおきなどがぬけてしまい、内容が理解しえなくなる。だから原則として遅刻は認めない。</p>		<p>〔講義計画〕 1. 講義全体の構想 2. 騎馬民族とはーモンゴル出現以前ー 3. チンギス=ハーンの目指したこと 4. チンギス=ハーンの事績 5. 後継者たち 6. 征服王朝を作るーフビライ=ハーンのもくろみー 7. モンゴル世界帝国で行われたこと 8. 多民族をどう統治したか 9. 行き交う人と物 10. モンゴル世界帝国の文化状況 11. モンゴルのもたらしたもー後世への影響ー 12. まとめにかえて</p>		
<p>〔成績評価の方法〕 毎回授業終了時に、出席確認をかねた理解度確認のための小テストを行う。これは、授業担当者と受講生との、意思の疎通をはかる役割ももつ。この小テストの内容、すなわち、授業の主旨を理解しているかどうか、授業からどんな発想を得たのかなどを確認して、その積み重ねを評価の対象とする。原則として、この小テストだけによって成績評価を行う。</p>		<p>〔参考文献〕 間野英二等『内陸アジア』地域からの世界史6 朝日新聞社。 山田信夫『草原とオアシス』講談社。 間野英二『中央アジアの歴史』新書東洋史 講談社現代新書 講談社。</p>		
<p>〔教科書〕 特に指定しないが、毎回配布する予定の資料の「参考文献」欄にあげた文献類をできるだけ読んでほしい。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅲ スウェーデンの社会と経済	01 02	前期 後期	2単位 2単位	伊 藤 正 純
<p>〔講義概要・学習目標〕 この講義の狙いは、平等で民主的な福祉国家として有名なスウェーデン社会の特徴をできるだけたくさん紹介し、皆さんが現在の日本の社会を検討するときの比較の鏡を提供することにある。私は、政治、福祉、女性、労資関係、環境問題、国際化というテーマにそって、スウェーデン社会の特徴を紹介するつもりである（ビデオも使用）。 スウェーデン社会は、デモクラシーの実験国家だと呼ばれている。民主主義は、大雑把に言えば、政治的な民主主義（選挙制度、政治機構）、社会的な民主主義（社会福祉、教育制度）、経済的な民主主義（女性の就労、労働者の経営参加）の順で発展している（もちろん、これら3領域の民主主義は相互に影響しながら発展している）。福祉国家スウェーデンの成熟をみてみるとその感を強くする。上記のテーマ設定は、このような問題意識に基づく。そのスウェーデンも経済のグローバル化の中で、EUに加盟し、新たな福祉国家建設を模索している。この苦悩の面にも少しは触れたい。</p>		<p>〔講義計画〕 1. スウェーデンのいまー環境政策 2. 政治的な民主主義（選挙制度、政治機構、地方政治） 3. 社会的な民主主義ーその1（障害者福祉、高齢者福祉） 4. 経済的な民主主義ーその1（女性の就労、男女平等） 5. 経済的な民主主義ーその2（平和的な労資関係、労働者の経営参加） 6. グローバル化のなかでの苦悩</p>		
<p>〔成績評価の方法〕 平常点（授業中にとときき書いてもらう感想文：約20点）と学期末の筆記試験（約80点）による。</p>		<p>〔参考文献〕 1. 平田清明、伊藤正純他『現代市民社会と企業国家』御茶の水書房 2. 岡沢憲英『スウェーデンの挑戦』岩波新書 3. 宮本太郎『福祉国家という戦略』法律文化社 4. 岡沢憲英・宮本太郎編『スウェーデン・ハンドブック』早稲田大学出版部 5. 岡沢憲英・宮本太郎編『比較福祉国家論』法律文化社 6. 丸尾直美・塩野谷祐一編『スウェーデン』東京大学出版会 7. 竹崎政『スウェーデンはなぜ生活大国になれたのか』あけび書店 8. 仲村優一・一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉Ⅰ』旬報社 9. 加藤彰彦・馬場寛『スウェーデンの社会サービス法/LSS法』樹芸書房</p>		
<p>〔教科書〕 使用しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅲ (議会制の危機)		前 期	2単位	山 崎 充 彦
【講義概要・学習目標】 現代民主主義にとって、議会制はいわば不可欠な制度である。最近脚光を浴びている住民投票は、あくまで議会を補完する制度と位置づけられるに過ぎない。しかし、我が国の国会の現状は到底、国民にとって満足すべき状況ではない。審議の形式化、閣取引の横行など、国会の現状が「国権の最高機関」の名にふさわしいとは言えない一面があることも事実であろう。 この講義では、戦後日本の政治史を振り返り、現実の政治状況を踏まえつつ、国会の役割と現状、議会制の果たす機能、議会と官僚制の関係などの点を通して、現代日本にとっての「議会制の危機」とは一体いかなるものかを考える。	【講義計画】 1、現代における議会制の危機とは？ 2、国会の機能と役割 3、議会と行政機構 ー緊張か協調か 4、国会の空洞化？ 5、国会はいかなる意味において危機か？			
【成績評価の方法】 この講義では、出欠は一切とらない。従って、出席カードだけを目当てに教室に来て時間も労力の無駄に終わるであろう。出席カードの配布だけを待ち続け、その間、ひたすら友人同士での雑談にふけるうと計画している者には全く不向きな講義である。授業中の私語は絶対に許さず、ただちに退室を命じることを実践しており、その点、了解の上、登録・受講されたい。 成績評価は、定期試験のみで行う。 教科書は使用しない。 参考文献については、授業中に随時紹介して行く	【参考文献】			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅲ (民主主義の危機)		後 期	2単位	山 崎 充 彦
【講義概要・学習目標】 二十世紀は、民主主義が政治的正統性を獲得した時代である。如何なる政治体制も自らの体制が民主主義的であると称することなしには存立し得なくなったのが、今世紀という時代なのである。 だが、今世紀の民主制は、必ずしも順風満帆な道のりだけを歩んだわけではない。ナチズムと共産主義という「左右の全体主義による民主主義の危機」を始めとして、政治的無関心・議会制の空洞化などに起因する民主主義の危機など、民主主義は常に危機の状態にある。 この講義では、現代民主制の抱える様々な問題点を「民主主義の危機」を鍵として考えてゆく。	【講義計画】 1、二十世紀民主制の危機とその要因 2、ナチズムと民主主義の危機 3、全体主義にとっての「民主主義」～世界観の相違？ 4、政治的無関心 5、現代議会制の空洞化 6、現代民主主義の危機とは？			
【成績評価の方法】 この講義では、出欠は一切とらない。従って、出席カードだけを目当てに教室に来て時間も労力の無駄に終わるであろう。出席カードの配布だけを待ち続け、その間、ひたすら友人同士での雑談にふけるうと計画している者には全く不向きな講義である。授業中の私語は絶対に許さず、ただちに退室を命じることを実践しており、その点、了解の上、登録・受講されたい。 成績評価は、定期試験のみで行う。 教科書は使用しない。	【参考文献】			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅳ (アイヌ民族：歴史と社会Ⅰ)	01 02	前 期 後 期	2 単位 2 単位	片 倉 穰
[講義概要・学習目標] 日本における「先住民族」・アイヌ民族の歴史と社会を概観し、いくつかの問題点を提起する。前近代では、考古学資料・ユーカラ および近隣地域の史料を多面的に活用しつつ、この民族の主體的な歴史の歩みを考察する。近世、とくに近代以後の日本国家による同化政策とそれに対する抵抗も重視する。 この講義の第一の目標は、「日本単一民族国家論」を再考する素材を提供することであり、第二の目標は、先住民族や少数民族固有の権利が議論されている国際的環のなかで受講生の皆さんが、同じ国家の構成員となっているアイヌ民族の歴史・社会と文化を理解し、歴史的存在としての自らを、改めて考える機会を提供することにある。	[講義計画] (1) はじめに —— 日本のなかのアイヌ民族 (2) 日本の古代文獻にみえる「蝦夷（エミシ）」 (3) アイヌ民族・文化の形成過程 —— アイヌモシリと日本中世国家 (4) アイヌ民族と松前藩 —— ジャクシャインの戦いを中心に (5) アイヌ民族にとっての近代日本 —— 同化政策を考える (6) 現代史のなかのアイヌ民族 —— 日本人にとっての南北問題 (7) おわりに —— アイヌ民族の歴史と社会からなにを学ぶか			
[成績評価の方法] 講義中に実施される小テスト（レポート）および期末試験等により評価する。	[参考文献] 田中 了、D. ゲンダーヌ共著『ゲンダーヌ — ある地方少数民族のドラマ』（現代史研究会、1978） 知里幸恵編訳『アイヌ神謡集』（岩波文庫）（岩波書店、1978） 荒野泰典・石井正敏・村井章介編『アジアのなかの日本史 5 地域と民族』（東京大学出版会、1992） 菊池勇夫『アイヌ民族と日本人』（朝日選書）（朝日新聞社、1994）			
[教科書] とくにない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅳ (変わる社会・孤立化する個人)		9月集中	2 単位	土 屋 正 春
[講義概要・学習目標] 「我々はどこから来たのか、そしてどこに行くのか」という言葉はタヒチに没した画家ゴーギャンの言葉として皆さんもご存知でしょう。この言葉は、現代文明に対する根本的な問いかけでもあるのですが、実はもう一つの言葉が、この二つの言葉の間にはあるのです。 環境問題が深刻化する一方で多様な文化の担い手である「ひと」は次第に生命活動の「DNA総合体」として認識されることが多くなりつつあります。安楽死や尊厳死をめぐる問題はそうした場面が別の現れ方をしていると言えるでしょう。 このクラスでは環境と生命とをめぐる現代的な考え方についての概観を得ることを目標とします。ところで、間に入る言葉とは何でしょう。	[講義計画] 1. 何が問題となっているのか アザラシはなぜ大量死したのか 生きる価値がないとなぜ人は考えるのか 2. 問題はどのように受け止められているのか COP3の議論はどのように組み立てられたのか 尊厳死と安楽死はどのように選択されているのか 3. 現代社会での個人のあり方をめぐって 環境最優先という考え方について 生命最優先という考え方について			
[成績評価の方法] 講義を通じてお知らせします	[参考文献] 講義を通じてお知らせします			
[教科書] 使用しません				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅰ 先住民族とキリスト教Ⅰ		前 期	2 単位	小 柳 伸 顕
【講義概要・学習目標】 大航海時代のキリスト教は、新天地での宣教を目指し、海外へ進出します。その典型がコロンブス(1492)にはじまるアメリカ大陸への進出(侵略)です。そこでキリスト教が出会ったのが先住民族インディオです。インディオに対してキリスト教宣教の名のもとに何がなされたのか。スペイン人司祭バルトロメ・デ・ラスカサス(1484～1566)の手がかりに考えたい。キリスト教や歴史の見たに新しい発見を期待します。	【講義計画】 1. 1492年のスペインとめぐりこ 2. コロンブスと新大陸 3. 植民者ラス・カサス 4. 司祭ラス・カサスの「回心」 5. インディオとは誰かーバリアードリッド論争 6. インディオとキリスト教 以上の項目について2～3回ずつ検討します。			
【成績評価の方法】 期末試験	【参考文献】 ・染田秀藤『ラス・カサス』清水書院 ・石原保徳『世界史への道』前後、入野ライブラリー ・小岸 昭『十字架とダビデの星』NHKブックス ・ラス・カサス『インディアの破壊』についての簡潔な報告書 岩波文庫 ・増田義郎『物語ラテンアメリカの歴史』中公新書			
【教科書】 無し				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅰ 先住民族とキリスト教Ⅱ		後 期	2 単位	小 柳 伸 顕
【講義概要・学習目標】 明治維新とともに宣教師たちによってプロテスタントのキリスト教が日本各地に伝えられます。イギリスの聖公会は、宣教師ジョン・バチエーを通じて北海道(アイヌ・モシリ)の先住民アイヌ民族への宣教を試みます。ジョン・バチエーの60余年に渡りキリスト教活動(伝道、教育、医療等)は、アイヌ民族にとってどんな意味を持っていたのでしょうか。アイヌ民族の生活、宗教に角をみながら検討します。アイヌ民族にとってキリスト教は何とあったのでしょうか。	【講義計画】 1. アイヌ民族の歴史と現在 2. 明治政府と松浦武四郎 3. ジョン・バチエーとアイヌ民族 4. バチエー―八座子とめぐりこ人たち 5. アイヌ民族とキリスト教の現在 以上の項目について2～3回ずつ検討します。			
【成績評価の方法】 期末試験	【参考文献】 ・谷川健一編『近代民衆の記録―アイヌの新人物往来社 ・ジョン・バチエー『アイヌの伝承と民俗』青土社 ・山田孝子『アイヌの世界観』講談社 ・蒼 屋 野 茂『アイヌの石年』朝日新聞社 ・宮島利光『4キサンニの大地』日本基督教団出版局			
【教科書】 無し				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅰ（人間イエス）	01	前 期	2単位	滝 澤 武 人
	02	後 期	2単位	
[講義概要・学習目標] <p>当たり前の一の人間として生きていたイエスの歴史的な姿を明らかにすることがこの講義の目標である。そのためには、200年にわたる「福音書」の学問的な研究成果を土台としなければならない。そして、どれがほんとうのイエスの言葉なのか、どのような歴史的状況の中で、誰に対して何のために語られた言葉なのかを慎重に判断しなければならない。</p> <p>イエスは民衆の中で民衆とともに生き、人間の自由と愛のために最後まで戦い抜き、その結果として殺された人間である。そのようなイエスの生きざまは、「キリスト教」という枠組みをはるかに超えた普遍性を獲得している。特に、社会福祉・医療・教育・人権・ボランティアなどの問題に関心を有する世界中の多くの人々に、今日でもなお感動と勇気と希望を与えることになるであろう。真面目な学生諸君の熱心な受講を期待している。</p>	[講義計画] <p>滝澤武人『人間イエス』に従って講義する。</p> <p>序章 イエスをもとめて 1章 おいたち 2章 被差別民衆 3章 ヒーリング 4章 どんな男？ 5章 どう生きる？ 6章 教会は？ 7章 終末 8章 死 終章 復活</p>			
[成績評価の方法] <p>試験・レポート・出席・受講姿勢などを総合的に評価する。</p>	[参考文献] <p>田川建三『イエスという男』（三一書房） 荒井 献『イエスとその時代』（岩波新書）</p>			
[教科書] <p>新共同訳『新約聖書』（日本聖書協会） 滝澤武人『人間イエス』（講談社現代新書）</p> <p>（授業時には必ず毎時間持参すること。）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅱ 心を支え合う共同体を創る	01	前 期	2単位	伊 藤 高 章
	02	後 期	2単位	
[講義概要・学習目標] <p>人と人との関係には、様々な力学が働いている。私たちは、それらについて意識的・自覚的である場合もあるが、無意識的・無自覚な場合もある。本講義では、行動科学・社会心理などの知見の助けを借りながら、人間関係に働く諸力についての気づきを深めることを目指す。</p> <p>また、それらをよりよく理解するには体験学習が効果的であるので、受講者が自ら人間関係のダイナミズムを味わう設定を行う。受け身の座学の時間ではなく、実際に人間関係を営み、そして共同体を築く経験をする。具体的には、自分史の振り返り、家族史、人間関係ゲーム、ロールプレイなどを行う。</p>	[講義計画]			
[成績評価の方法] <p>様々な対人関係を「試みる」ことを学習の手段とするこのクラスでは、その「試み」である他者への具体的な働きかけに基づいて個々の受講生を評価することは行わない。全授業に「参加」（出席だけで活動しないのは「参加」ではない）の受講生にはAを、1回でも正当な理由なく欠席した受講生にはDをもって成績評価とする。</p> <p>中島義道 『＜対話＞のない社会 ——思いやりと優しさが圧殺するもの——』 (PHP新書032)</p>	[参考文献]			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅲ (仏教経典を読む)	01 02	前 期 後 期	2単位 2単位	武 田 耕 道
【講義概要・学習目標】 浄土とは仏の国を意味している。そして浄土思想は大乗仏教より生まれたものである。大乗仏教の経典が多くの仏を想定したように、浄土もそれらの仏の国としてさまざまである。阿弥陀仏の西方極楽浄土、薬師仏の東方淨瑠璃浄土がその主なものである。このさまざまな仏の存在は仏教の開祖ゴータマ・ブッダに由来する。悟りを開いた覚者としての釈尊のその悟りの実証が、釈尊以前の過去七仏に求められたように、さまざまな仏の存在は釈尊を通して生まれた。遠く世を去った釈尊を仰ぎ見て、追慕と賛嘆の熱き心より、釈尊の再現が大乗の仏たちに投影したのである。だから仏たちは釈尊と一体であり、釈尊を永遠化したものである。 浄土思想を通して大乗仏教の基本を追求したい。	【講義計画】 1. 釈迦如来 2. 阿弥陀如来 3. 大乗仏教 4. 発心誓願 5. 修行巡礼 6. 菩提涅槃 7. 浄土往生 8. 教行信証			
【成績評価の方法】 期末試験と出席状況	【参考文献】 授業中に紹介			
【教科書】 特に指定せず				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅲ (安藤昌益の思想) 安藤昌益「イデオロギーと事実」	01 02	9月集中 12月集中	2単位 2単位	三 宅 正 彦
【講義概要・学習目標】 個別事象の内部構造を解明し、その上で事象相互の必然的本質的連関＝法則性を追究するのが研究の原則である。しかし、特定の利害に立つイデオロギーにもとづいて、個別事象を恣意的に取捨選択し、その内部構造を意図的に曲解させて、論者の主観的立場の表現に利用しようとする傾向がしばしば存在した。最近では安藤昌益の研究が中国の文化大革命流のイデオロギー宣伝に利用された。昌益の思想の実像を明らかにするためには、昌益に関する事象の一つ一つを掘り起こすことから始めなければならない。講義者の30年の調査にもとづいて、この問題に迫る。	【講義計画】 1. 研究とイデオロギー 2. 昌益研究と事実の掘り起こし 3. 時代と地域 4. 先行思想の影響 5. 思想の東北的特性			
【成績評価の方法】 期末試験(講義に欠かさず出席して内容の理解に努めていれば単位取得は容易、欠席が多ければ困難)	【参考文献】 三宅正彦著『安藤昌益と地域文化の伝統』(雄山閣, 1996年)			
【教科書】 資料を配る。ただし、配る時に出席している人に1回限り交付する。そのとき欠席した人に対する追加配りや持参するのを忘れた人に対する再配りは行わない。毎時資料を参照しなければ講義の理解は困難になる。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅲ（植民地期朝鮮の宗教）	01	前 期	2単位	青野 正明
	02	後 期	2単位	
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>まず、日本による朝鮮の植民地支配について学ぶ必要があるが、特に朝鮮の民族文化と同化政策（「日本人」化の政策）との関係を中心に概説する。</p> <p>次に、巫俗をはじめとする民間信仰について学び、それに対して朝鮮総督府（日本の統治機関）はどのような政策を取ったのかを概説する。</p> <p>同様に、「東学」以来の民衆宗教運動も学び、総督府による対策を説明する。また、総督府の神社政策も民間信仰との関わりから概観を説明していく。</p> <p>難しいテーマであるが、留学や現地調査の体験談を交え、また具体的な資料も使いながら、できる限り平易に説明していく。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>[講義概要・学習目標]で説明した流れに沿って、資料やプリント類を配布しながら講義を進めていく。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況、受講態度、期末レポートを総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて授業中に紹介する。また、プリント類も配布する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>なし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅲ（トーテムの世界）	01	前 期	2単位	井本 英一
	02	後 期	2単位	
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>古今東西の文化において、人間は死後、動物になると考えられた。それぞれの文化によって、その動物の種類は異なった。古代中国の十二支動物も起源的にはこの種の動物であった。十二支動物の源流について、古代西アジア文明の世帯に足と踏み入れて考察する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>そのあと、鼠から蛇までの動物にまつわる神話、伝説、信仰を解説し、その構造と解き明かし、宗教の始原に迫る。前期の講義は鼠、牛、虎と扱ひ、後期のそれは兎、竜、蛇と扱ひ。学生諸君の干支(とと)は、この中にはないかも知れないが、講義中に適宜解説する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末試験の成績による。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>井本英一「十二支動物の話」 - 『巫祝信仰の巴里』 法政大学出版局</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅳ (古代インドの自由思想Ⅰ)	01 02	前 期 後 期	2単位 2単位	杉 岡 信 行
【講義概要・学習目標】 古代インドの思想・宗教は、祭祀主義のパラモン教が主流であった。ところが、紀元前5、6世紀に北部インドを中心に祭祀主義に異を唱える自由思想家たちが多数輩出した。パラモン教徒たちは、世俗の中であって、世俗生活を肯定していた。一方、自由思想家たちは、超俗を尊び、出家主義を宗としていた。自由思想家の中でも仏教の開祖であるゴータマ・ブッダとジャイナ教の祖師マハーヴィーラは最も有名である。授業では自由思想家たちの思想と宗教活動について見ていく。 また、古代インドの宗教を考えるとともに、現代における宗教の意味と意義について考えていきたい。	【講義計画】 1) 古代インドとバラモン教 2) 6人の自由思想家(六師外道) 3) ジャイナ教の宇宙観 4) ジャイナ教の業思想 5) 輪廻からの解脱 6) ジャイナ教の実践道 7) 仏教とジャイナ教 8) 宗教と差別			
【成績評価の方法】 期末試験により評価する。	【参考文献】 『バラモン教 原始仏典』中公バックス 世界の名著 長尾雅人編 中央公論社			
【教科書】 『宗教と救済』 山口恵照他編著 ナカニシヤ出版				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅳ (心の本性—哲学的見地から)	01 02	前 期 後 期	2単位 2単位	木 下 昌 巳
【講義概要・学習目標】 人の心とはどうなっているのか？それはわれわれが何よりもいちばん知りたいことである。近年の心理ゲームの流行や「わたし探し」ブームも、その現れの一つであると見なすことができるだろう。哲学においても、人の心の本性をどう捉えるかということは、古代より多くの哲学者の中心的な関心の一つであった。今世紀になり、心を対象とする学問として心理学が成立し、研究対象としての心を哲学から奪ってしまった感があるが、哲学者たちの心にたいする正面からのアプローチは、われわれの根元的な問いに答えるものとして、現代の行動心理学的なアプローチとくらべてなお魅力的でありつづける。この講義では、プラトン、デカルト、フロイトの三人の思想家を取り上げ、彼らの心の哲学を今日的なトピックを織り、まぜながら論じていくことにする。授業の内容はそれなりにハードなものであり、ただ「心理ゲーム」的な内容を期待するのであれば、当てが外れることになるだろう。	【講義計画】 1、序論 2、プラトン 3、デカルト 4、フロイト 5、まとめ			
【成績評価の方法】 学期末試験 80点 授業中に提出するエッセイ(三回程度実施する予定) 20点 以上の100点満点で評価する。	【参考文献】 その都度、授業で指示する。			
【教科書】 とくに指定しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術 I 現代の宇宙論	01 02	前 期 後 期	2 単位 2 単位	桑 原 雅 子
【講義概要・学習目標】 現代の宇宙論は20世紀科学が到達した頂点のひとつである。天文学、素粒子物理学、さらに観測装置や人工衛星など技術のめざましい進歩によって、われわれは宇宙の始源について正確なシナリオを描き、宇宙の構造について精緻な知見をもつにいたった。物質世界の統一的記述に一応成功しつつあるといえる。文系の学生諸君に宇宙科学最前線のテーマをわかりやすく講述することは、担当者にとっても至難であるが、チャレンジしてみよう。 また講義をとおして、現代科学の方法、科学と技術の分ち難い関係、基礎科学の進展と国家の科学技術政策のかかわりについて考えるきっかけを提供したい。宇宙について省察することは、人間存在について思いをめぐらせることである。コスモロジーとしての人文的要素も、おりにふれ考察の対象とする。	【講義計画】 1. はじめに：宇宙論小史 2. 近代科学の宇宙像 3. 観測と理論：18-19C 4. 銀河と宇宙の構造 5. 膨張する宇宙 6. 相対論的宇宙論 7. ビッグバン・モデル 8. 重元素生成と星の一生 9. 素粒子の世界 10. 標準理論を超えて 11. 観測的宇宙論の新展開 12. おわりに：宇宙と人間 ほぼ一回の講義時間にひとつの章が対応するが、4、5、7、8、の各章には重点的に時間を配分する。			
【成績評価の方法】 期末試験による。 授業中に課する提出物の内容を副次的に考慮する。	【参考文献】 宇宙論については、平易な解説書から専門書まで多種多様な書物が存在する。最新の観測装置によるカラー写真集も種々出版されている。講義中にも提示するが、ぜひ図書館や書店で手にとって見比べ、自分に合う図書を選んでほしい。			
【教科書】 使用しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術 I エネルギー問題の科学技術	01 02	前 期 後 期	2 単位 2 単位	後 藤 邦 夫
【講義概要・学習目標】 文明社会は莫大な量のエネルギーの消費の上に成り立っている。たとえば、経済活動と市民生活を支えるために日本が輸入する石油、天然ガス、石炭などの化石燃料は年間数億トンにのぼる。そのほかに、放射能などの問題を抱えた原子力発電所を多く稼働させている。エネルギーの安定供給はわれわれにとって死活問題である。 このエネルギー問題の科学技術的側面として、資源の探査と採掘、輸送と貯蔵、転換と精製、配分システム、効率的利用などがあり、いずれも今日の科学技術の重要課題である。しかも、その基底には「エネルギー原理」と「エントロピー原理」という、われわれの自然認識の根幹にかかわるテーマがある。これらを出来るだけ平易に解説し、エネルギー問題の重要性とその根底にある原理的問題に対する認識を深める。	【講義計画】 以下のテーマをそれぞれ約2回ずつ扱う。 (1) エネルギー問題理解のための基本事項。 (2) 化石燃料資源の探査と採掘。 (3) 化石燃料の精製、加工、転換。 (4) エネルギーの動力利用。 (5) エネルギー科学の基礎的原理 (1) 「エネルギー保存則」。 (6) エネルギー科学の基礎的原理 (2) 「エントロピー増大則」。			
【成績評価の方法】 期末のテストの結果が中心であるが、テーマを決めてレポートを課し、あわせて評価する。	【参考文献】 おびただしい良書がある。講義に際して配付するシラバスでその一部を挙げるが、他にテーマごとに授業中に示す。			
【教科書】 使用しない。必要に応じプリント等を配付する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅲ 生命を操る技術の光と陰	01	前 期	2単位	鈴木善次
[講義概要・学習目標] 今日の科学技術の発達にはめざましいものがある。それは人々に物質的豊かさを与えてくれたと同時に、さまざまな問題をももたらした。 本講義では“生命を操る技術”を具体例として取りあげ、その技術の光と陰(メリットとデメリット)を検討し、学生諸君とともに“人間にとって科学技術はどうあるべきか”を考えてみたい。 学生諸君にはそうしたことを考える能力を身につけてほしいと願っている。	[講義計画] 1. 科学と技術の関係について。 2. 生命操作技術の現状と課題について (1)分子レベルでの技術 DNA(遺伝子)組み換え技術 (2)細胞レベルでの技術 体外受精技術、クローン技術 (3)器官レベルでの技術 臓器移植技術 3. 人間にとっての科学技術のあり方			
[成績評価の方法] 授業時に随時、感想文を提出してもらい、その内容をも加味しながら、期末テストの結果をもとに成績を評価する。	[参考文献] 講義時に随時、紹介する。			
[教科書] なし。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅲ 生命を操る技術の光と陰	02	後 期	2単位	鈴木善次
[講義概要・学習目標] 今日の科学技術の発達にはめざましいものがある。それによって人々は便利で快適な生活を手にする機会が生まれた。しかし、一方でさまざまな問題も生じてきている。 本講義では“生命を操る技術”を具体例として、その技術の光と陰(メリットとデメリット)を検討し、学生諸君とともに“人間にとって科学技術はどうあるべきか”を考えてみたい。 とくに文科系の学生は、理科学的事柄を苦手と思う傾向をもつが、これからの社会では、科学技術が生活に深くかかわってくる。その意味で、科学や科学技術のあるべき姿についての確かな判断や発言の出来る力を身につけてほしい。	[講義計画] 1. 科学と技術の関係について。 2. 生命操作技術の現状と課題について。 (1)分子レベルでの技術 DNA(遺伝子)組み換え技術 (2)細胞レベルでの技術 体外受精技術、クローン技術 (3)器官レベルでの技術 臓器移植技術 3. 人間にとっての科学技術のあり方			
[成績評価の方法] 授業時に、随時、感想文を提出してもらい、その内容をも含めて、期末テストの結果をもとに成績を評価する。	[参考文献] 講義時に随時、紹介する。			
[教科書] なし。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅲ（地球生物の来し方・行く末）		後期	2 単位	松永 俊男
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>あらためていうまでもなく、人間は生物進化の産物である。その人間が「地球にやさしく」などというのは、人間の思い上がりである。百億年の寿命をもつ地球から見れば、人類の活動など、ほんの一瞬のできごとにはすぎない。環境破壊によって人間自体が絶滅しても、やがて地球には緑が回復し、新たに進化した動物が海にも陸にも満ちあふれることだろう。</p> <p>この講義では、ビッグ・バンに始まる宇宙の歴史の中で、地球に生命体が誕生し、人間という知性体が登場した経過を探索する。さらに、地球外生命体の可能性や、人類と地球の将来などについて考察したい。</p> <p>授業は、V I D E OやC D - R O Mなどの映像資料を利用した楽しいものにしたが、遅刻や私語には厳しく対応する。</p> <p>最初の授業時に、毎回の講義内容を示した講義予定表を配布する。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球の誕生 2. 大量絶滅の謎 3. 生命の起源と宇宙人探査 4. 最初の地球生物 5. 酸素の役割 6. 陸生生物の出現 7. 脊椎動物の進化 8. サルからヒトへ 9. 現生人類への歩み 10. 生物としてのヒト 11. 遺伝子工学と生殖革命 12. 地球と人類の将来 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>原則として、毎回の授業の最後に小テストを実施する。この小テストの結果と期末テストの結果を総合して評価する。</p>		[参考文献]		
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅲ （世界の採集狩猟民）		前期	2 単位	尾本 恵市
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この授業では、人類の進化に伴う生活技術の発展を概説する。前期には、人類の歴史の時間的に99パーセントを占める採集狩猟の生活技術について学ぶ。先史人類学からの情報だけでなく、現代も地球の各地に採集狩猟民がいることを、映像（ビデオ）を多く使用して視覚的に知ってもらおう。また、それらの伝統的な文化や世界観から、われわれが学ぶべき点があることについても注意を喚起する。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>ビデオ教材を利用して、世界の多様な民族とその文化について視覚的に理解することを重視する。毎回、出席票に質問または感想を書かせ、次回に回答する。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験は行わず、出席点およびレポートによって評価する。</p>		[参考文献]		
[教科書]				
未定。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅲ (害虫とたたかう)		前 期	2単位	巖 圭 介
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>人間は有史以来さまざまな昆虫とたたかってきた。人間に直接害を与える昆虫や、病気を媒介する昆虫、そして農作物を加害し横取りしようとする昆虫。とくに農業の歴史は、害虫との絶えまないたたかひの歴史でもあった。</p> <p>化学合成殺虫剤の発明は害虫とのたたかひにピリオドを打つかに見えた。ところが殺虫剤などの農業は、人の健康を害し、野山の生き物を殺し、環境を破壊し、その一方で害虫の数はいっこうに減ることがない。農業に頼り切ってきた過去50年の農業が、今転換期を迎えようとしている。</p> <p>この授業では、人間の害虫とのたたかひの歴史をたどり、開発されてきたさまざまな技術を概説する。それを通して、ただ単に害虫防除のことは知るといっだけでなく、日々何気なく口にしている野菜や果物がどれだけの苦勞をかけて作られていて、今農業がどういっう状況にあるかといっ『食』の問題について関心を持ってもらいたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>おおむね次のようなテーマに沿って進行する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・害虫防除史 ・いろいろな害虫 ・稲作農家の永きたたかひ ・農業のすべて ・害虫はなぜはびこる ・天敵の話 ・遺伝子組み換え作物 ・530億匹の闘い：ウリミバエの根絶 ・総合的害虫防除 ・有機農業 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>2回の短いレポートと論述式の期末試験により判定する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて授業中に示す</p>			
<p>[教科書]</p> <p>とくになし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅲ (滅びゆく生物)		後 期	2単位	巖 圭 介
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>人間は常に自然の恵みにより生かされてきた。しかし人間が節度を忘れてひたすら効率的に自然から収奪するようになった結果、多くの生物がすでに滅び、また今滅びようとしている。現在、地球始まって以来最大のペースで生物が絶滅しつつあるといわれている。守るべき自然、守るべき生物はどこにいるのか、なにが彼らを滅ぼそうとしているのか、そして私たちは何をすればいいのだろうか。</p> <p>この講義では、生物保全の基礎を事例をふまえながら紹介していくが、同時にこの地球に存在する多くの生物が人間にとってどのような意味を持ち、なぜ私たちは彼らを守らねばならないのかといっことを考える機会としてもらいたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>おおむね次のようなテーマに沿って進行する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間と自然の関わり ・原生林の保護 ・里山の成立と破壊の歴史 ・ウェットランドー陸と水が出会う場所ー ・滅びゆく生物が直面する遺伝的問題 ・侵入生物の脅威 ・生物の有効利用と乱獲 ・絶滅危惧種の把握と保護 ・なぜ生物を守らねばならないのか 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>2回の短いレポートと論述式の期末試験により判定する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて授業中に示す</p>			
<p>[教科書]</p> <p>とくになし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅲ (農耕民と牧畜民)		後期	2単位	尾本 恵市
[講義概要・学習目標] この授業では、人類の進化に伴う生活技術の発展を概説する。前期の採集狩猟の生活技術に引き続き後期の授業では、農耕民と牧畜民の生活技術・文化をビデオ映像によって、視覚的に知ってもらう。	[講義計画] ほぼ毎回ビデオを使用し、文化の多様性について視覚的に理解することを重視する。毎回、出席票に質問や感想を書いてもらい、次回に回答・解説を加える。			
[成績評価の方法] 試験は行わず、出席点およびレポートによって評価する。	[参考文献] その都度指定する。			
[教科書] 未定。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅲ (環境問題と科学技術Ⅰ)		前 期	2単位	井 田 和 子
[講義概要・学習目標] 現代文明を特徴づけている科学と技術とはいったいどのような科学・技術をさすのか。科学技術はどこへ行こうとしているのか。科学や技術が産業構造だけでなく、社会や政治さらには人間の生存そのものにも、かかわりあいを持つものになってきた。 身近な地域の公害問題を解決し、環境保全の立場に立った科学技術の発展が急務である。	[講義計画] 1. 水環境：水の特性と働き、水の環境、都市に水を安定供給する方法、河川水の水質汚濁 2. 大気環境：環境大気の構造と組成、環境大気の汚染物質、光化学スモッグ、ヒート・アイランド 3. 土壌環境：土壌の誕生と機能、年土壌の特徴、土壌汚染、市街地の土壌汚染の防止 4. 環境資源としての森林の働き 5. 有機塩素系化合物（環境ホルモン）の毒			
[成績評価の方法] 期間中に数回のレポートを書いてもらい、期末テストの結果とあわせて評価する。	[参考文献]			
[教科書] 印刷教材（一心社印刷） 井田和子著 環境問題と科学技術				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅲ (環境問題と科学技術Ⅱ)		後 期	2 単位	井 田 和 子
【講義概要・学習目標】 歴史の歩みの中で科学や技術はどのような役割を果たしてきたか、人間社会の未来に対してどのようにかわりあっているのか。 科学技術が経済構造、社会や政治、人間そのものにまで、深いかかわりをもつようになってきた。 生産者ではなく、消費者主導の、環境保全の立場に立った科学技術の発展が急がれる。	【講義計画】 1. オゾン層の破壊：破壊機構とフロンガス 2. 地球の温暖化：温暖化と化学燃料、温暖化の影響 3. 酸性雨と環境の酸性化：高度工業化と酸性化問題 4. 熱帯林現象と気象への影響と経済問題 5. 環境破壊と生物多様性の減少 6. 人為が原因の砂漠化 7. 海洋の有機塩素化合物汚染 8. 環境問題と科学技術			
【成績評価の方法】 期間中に数回のレポートを書いてもらい、期末テストの結果とあわせて評価する。	【参考文献】			
【教科書】 印刷教材（一心社印刷） 井田和子著 環境問題と科学技術				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅳ－「情報」を科学で扱う	0 1 0 2	前 期 後 期	2 単位 2 単位	後 藤 邦 夫
【講義概要・学習目標】 コンピュータの中で「情報」が処理され、通信回線や電波を通して「情報」が世界中を駆け回っている。そこでは科学や技術が中を利かせているが、一体「情報」（あるいは知識）を「科学的に扱う」とはどういうことであろうか。たとえば、文学等で言葉を扱うのと同じだろうか。歴史的な話題を取り上げながら、われわれが行ってきたことを振り返ってみる。いわば、「対話と手紙」から「インターネット」までを、出来るだけ共通のモデルによって考えてみようというのである。そのモデルは「科学」としては好都合のものであるが、人間が互いに言葉を交わしながら考えるという「情報処理の原点」をどのように変えたか。これから否応なしに人工的な情報処理の世界に入ってゆく学生諸君に、一度考える機会が提供できれば幸いである。授業はできるだけ平易に行うが、情報に関する基礎的な理論の輪郭は理解してもらいたい。	【講義計画】 以下のテーマをそれぞれ1、2回ずつ扱う。 (1) 言葉とコミュニケーションを扱うモデル。 (2) 文字情報の生成と伝達（印刷と出版のシステム）。 (3) 情報の「符号化」の役割。 (4) 「ことば」と「波」（電波による情報の大量輸送）。 (5) 情報の理論的基礎（1）シャノンの第1定理の意味。 (6) 情報の理論的基礎（2）シャノンの第2定理の意味。 (7) コンピュータにおける情報の働き。			
【成績評価の方法】 期末のテストの結果が中心であるが、テーマを決めてレポートを課し、あわせて評価する。	【参考文献】 部分的な問題については、おびたしい良書がある。しかし、このテーマを一貫して扱った本は意外に少ない。講義に際して配付するシラバスでその一部を挙げるが、他はテーマごとに授業中に示す。			
【教科書】 使用しない。必要に応じプリント等を配付する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅳ (情報とコミュニケーション)		前 期	2 単位	真 庭 功
[講義概要・学習目標] インターネットが世界をネットワーキングしている。ワールド・ワイド・ウェブによる情報検索をはじめ、電子メールやマルチメディアの活用により電腦空間が急速に拡大し、携帯電話、カーナビゲーション、衛星放送などの衝撃も加わって、社会はデジタル革命の様相となっている。 授業では、現在の情報技術や通信技術について概説する。これらの技術が生活空間や文化創造を支援するための方法を考える。 ビデオ教材などを活用して理解を深め、双方向の論議の一助にしたい。 電子メールでの意見発表を試みる。 レポートは新鮮な目で興味をもって調べ、考えることを期待している。	[講義計画] 1) 激増するマルチメディア商品群 パソコン、CD-ROM、携帯電話、テレビなど 2) 情報と通信の基礎知識 広がるデジタル情報の世界 3) 情報と通信を支える技術 半導体、ソフトウェア、ネットワーク 4) 情報革命や通信革命がもたらすもの(光と影) 電腦社会と仮想現実の世界 5) ネットワーク時代の課題と展望			
[成績評価の方法] 数回のレポートとテストの総合評価。出席は3分の2以上が必要。	[参考文献] 島野 清志 著『情報・通信産業』 ぱる出版 井上 信雄 著『通信・ニューメディアがわかる事典』日本実業出版社 桃山学院大学計算機センター編『ユーザーズガイド』桃山学院大学			
[教科書] 必要に応じて指示する。 ・ビデオ教材と、プリント教材の配布				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅳ (情報の数理Ⅰ)		前 期	2 単位	井 上 勤
[講義概要・学習目標] 情報科学(特にコンピュータを利用)を学 修する諸君に対して数学的素養と して持ち合せていて当然と思われ る内容を講義(演習を含む)する 命題論理を中心に後半ではブール 代数やカリー図について言及する これらの応用は情報の生成はも とより論理回路の設計はコンピュータの 原理と密接な関係があることは確 かである	[講義計画] 1. 基礎(集合、関数、順列・組合せ、 基数法) 2. 論理(論理代数、ブール代数、 論理ゲートと論理回路)			
[成績評価の方法] 主資料は定期試験の成績と平常 授業の出席状況である	[参考文献]			
[教科書] 柴田正憲 浅田由良 共著 情報科学のための離散数学 コロナ社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅳ (情報の数理Ⅱ)		後 期	2単位	井 上 勤
【講義概要・学習目標】 前期開講の科学と技術Ⅳ(情報の数理Ⅰ)の受講の有無とは全く関係はない。しかし学習目標は同じである。 その内容はグラフ理論とオートマトンである。	【講義計画】 1. 基礎(集合、関数、順列・組合せ、基数法) — 前期で講義できなかった箇所 — 2. グラフ理論(グラフ概念と基礎知識、いろいろなグラフ、古典的問題、木(ツリー)、有向グラフ) 3. オートマトン(アルファベットと言語、有限状態機械、チューリング機械)			
【成績評価の方法】 主資料は定期試験の成績であり、加えて平常授業の出席状況である。	【参考文献】			
【教科書】 柴田正憲、浅田由良 共著 情報科学のための離散数学 コロナ社				

「論述作文」クラス一覧

クラス	担当者	頁	クラス	担当者	頁	クラス	担当者	頁
01	青田 寿美	96	06	佐藤 慶子	98	11	三浦 俊介	101
02	巖 圭介	96	07	滝澤 武人	99	12	安田 真一	101
03	片倉 穰	97	08	並川 宏彦	99	13	柳父 章	102
04	木下 昌巳	97	09	岡本 洋之	100	14	山川 偉也	102
05	青野 正明	98	10	藤原 健	100			

〔注意〕

1. 実習的性格をもつ授業のため、1クラスの受講生は30名以内に制限する。従って応募者が定員を超えた場合、クラスへ参加できないことがある。
2. どのクラスも出席を重視する。一定の成果をあげるために、持続的な訓練が欠かせないからである。
3. 授業を円滑に運営し、よりよい成果をあげるために、「クラス一覧表」のようなクラス分けを行う。
4. 学則上、この科目は、共通自由科目（共通系）（2単位）に位置づけられている。
5. 募集は、次の日程で実施する。

〈申込受付〉学務課窓口

00E・SS・SW・B・L生…4月7日（金）9：10～15：00（11：30～12：30は昼休み）

96～99E・S・SS・SW・B・L生…3月31日（金）～4月1日（土）9：10～15：00（11：30～12：30は昼休み）

〈クラス発表〉4月12日（水）アンデレ館下掲示板

6. 申込方法

- ・「論述作文予備登録票」に必要事項を記入して提出すること。
- ・希望するクラスを3つ以内記入のこと。ただし、同一クラスを記入しないこと。
- ・時間割コードとクラス名が一致しない場合は、時間割コードにより処理するので注意すること。

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論 述 作 文	0 1	通 期	2 単 位	青 田 寿 美
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>〈書く〉という表現行為の背後には、特定の（或いは不特定の）読者が存在する——自明のことながら、それを意識するか否か、この違いは大きい。なぜなら、読者という〈他者〉の存在を意識したときに、自らの文章がいかにか読まれるかという問題に行き当たらざるを得ないからである。ここにおいてこそ、「表現すべき自己内面を、いかに〈明快・明確・簡潔〉な文章で綴り、読み手へと伝達するか。」との自問が始まる。</p> <p>本講義では、対象の有する問題点へ鋭く切り込んでゆく思考力を養うと同時に、それを論理的に組み立てて叙述する力の養成を目指す。そのためには、何よりもまず自らの内なる問題意識を明らかにせねばならず、さらには、自分の文章を多角的に見つめ直し検討すること、繰り返し書き直すことが必要となる。受講者各人には、様々な課題に対して根気よく取り組む姿勢を（時には執拗なまでの意欲を）希望する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><前期> 小論文作成のためのアウトライン・文段構成の基礎について概説。 毎時、原稿用紙2～3枚程度の文章を執筆する。 （6月以降、パソコンを使用した論文作成に切り替える。）</p> <p><後期> 修了論文の作成を中心に、原稿用紙10～20枚程度の、質量共に充実した文章を執筆する。 （修了論文に関しては、夏期休暇中に、資料収集とブックレポートを課す。）</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>各時間ごとの課題提出を重視し、修了論文と併せて総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>澤田昭夫著『論文のレトリック』（講談社学術文庫）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>木下是雄著『レポートの組み立て方』（ちくま学芸文庫）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論 述 作 文	0 2	通 期	2 単 位	巖 圭 介
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「的確な日本語で自分の考えを人に伝える」、これは学校のレポートに限らず、日常にも社会に出てからも、あらゆる場面で必要な能力である。事実に基づいて論理を展開し、自分の主張を相手に伝え納得させることのできる文章を書くことが、この講義の最終目標である。とくにこの授業では、文学や手紙のように心情的要素を含むものではなく、事実や状況に基づいた自分の意見をストレートに簡潔明瞭に述べる文章の書き方を修得してもらいたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>ときどき短い講義を挟みながら、原稿用紙2枚程度のレポートをいろいろなテーマに沿って毎回授業時間中にまとめてもらう。できた作品をクラス内で交換し、添削を加えながらいろいろな問題点を理解してもらう。前期中に計算機センターでワープロと電子メールの使い方を学び、作品の提出に利用する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況と提出作品数で評価する。欠席5回で除籍する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>木下是雄「レポートの組み立て方」ちくま文庫 本多勝一「日本語の作文技術」朝日文庫</p>			
<p>[教科書]</p> <p>とくになし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文	03	通 期	2 単位	片 倉 穰
[講義概要・学習目標] <p>「ちゃんとした日本語を書こうと思ったら、まず、勉強に本多勝一氏の『日本語の作文技術』を読み、これが私の持論である。」(多田道太郎)。 この演習では、まず本多氏の書を読んで、わかりやすい文章を書く秘訣を学び、古群廷治氏の『論文・レポートのまとめ方』で論文・レポートの書き方を学ぶ。そして、単に多く書くだけでなく、所定の課題について内容のある論述文が書けるよう努力してほしいと思う。このため、ほとんど毎時間ある課題で書くことが要求されるが、実践活動をとおして書く喜びを実感していただきたい。 正規の時間以外に、夏休みに書評一篇、学年末に小論文一篇を課する。</p>	[講義計画] (1) はじめに —— この演習の目標と方針 (2) 自己紹介文 (3) ～ (5) 作文の技術 —— 本多勝一『日本語の作文技術』(分担発表) (6) ～ (7) 論文の書き方 —— 古群廷治『論文・レポートのまとめ方』(分担発表) (8) 書評の書き方 (9) 人生論 —— 「忘れ得ぬ人々」「私の愛読書」 《夏休みの課題》書評提出(とりあげる作品は自由) (10) 大学・教育論 —— 「学歴の功罪」「理想の大学」「理想の教員像」 (11) 日本文化・社会論 —— 「少子化時代を考える」「ペットブームの問題点」 (12) 小論文作成の中間報告(各自文書で発表) (13) 政治論 —— 「日本人の政治意識」「政党と金」「選挙制度を考える」 (14) 国際問題 —— 「現代の民族問題について」「飢饉を考える」 《学年末の課題》小論文提出(自由題=ただし中間報告で報告済み) (15) おわりに —— この演習を終えるにあたって(反省)			
[成績評価の方法] <p>出席状況、毎回提出の作文、夏休み後の書評および学年末の小論文等により評価する。</p>	[参考文献] 本多勝一『日本語の作文技術』〈朝日文庫〉朝日新聞社、1982年 古群廷治『論文・レポートのまとめ方』〈ちくま新書〉筑摩書房、1997年			
[教科書] とくがない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文	04	通 期	2 単位	木 下 昌 巳
[講義概要・学習目標] <p>文章によって他人に何かを伝えようと思っても、いざ実際に書くとなると、どのように書けばよいのか戸惑ってしまうものである。自分の言いたいことを的確に伝える明快な文章を書くことはとても難しいことであり、それができるようになるにはある程度の訓練が必要である。この授業では実作を重視し、できるだけたくさん文章を書いてもらうことによって、文章を書くことに対する抵抗を取り除くことを目標にする。作文のテーマは、その都度、講師と個々の学生と相談することによって決定して、自分の興味のあること、書きたいことを書いてもらうつもりである。授業のなかではクラスメイトの作品を読みあって相互に批評しあうことも試みたい。文章を書くことが苦手な人だけでなく、文章を書くことが好きで自分の考えを自由に書いてみたい人も歓迎する。</p>	[講義計画] <p>前期は、原稿用紙2枚前後の短い文章を数編書いて、文章を書くことに慣れる。後期は、計算機センターにおいてワープロの使い方を練習し、原稿用紙5～10枚程度の比較的に長い文章をワープロによって書いてもらう。</p>			
[成績評価の方法] 授業内で提出された作品による。	[参考文献] なし			
[教科書] なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文	05	通 期	2単位	青野正明
[講義概要・学習目標] この授業では、論文やレポートの書き方を学んでいく。論文やレポートを書くうえで、内容が大切であるのはもちろんのことだが、それを書くに当たって形式面での知識も必要となる。その知識を習得して、論理的な文章が書けるようになることを目指したい。	[講義計画] 授業では、教科書を用いながら知識の面で書き方を学ぶと同時に、その内容を実践していくことを計画している。たとえば、「資料探し」について学んだなら、実際に自分で考えたテーマに合わせて資料を探してきて、みんなに紹介するという具合である。 原稿用紙も実践のために必要となるので、毎回持参すること。			
[成績評価の方法] 出席状況、受講態度、期末レポートを総合的に評価する。	[参考文献] 中村明『文章工房』（ちくま新書）、筑摩書房、1997年			
[教科書] 古郡廷治『論文・レポートのまとめ方』（ちくま新書）、筑摩書房、1997年				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文	06	通 期	2単位	佐藤慶子
[講義概要・学習目標] コミュニケーションの手段は発達、多様化していき、自分自身も考えを相手に伝える、相手の考えを理解する訓練は充分とは言えない。聞き、話し、読む能力の向上は、書く能力の向上の土壌には、基礎となる。書く能力は必要不可欠。自分の言や考えを相手に伝える、伝えるための方法、受け入れる心、理解力を養う必要がある。書く能力の向上は一生続けたい。覚悟が必要。	[講義計画] ＜前期＞ ①原稿用紙の使い方。 ②自分自身も考えをより正確に相手に伝えるための表現法。 ＜後期＞ ①敬語の使い方。 ②礼儀正しく、心をつとめて、手紙や書き込み、電話の掛け方。			
[成績評価の方法] ①出席（最重視） ②前・後期末試験 ③夏・冬期休暇中の課題 ④提出物 ⑤発表 ⑥授業中の態度	[参考文献] 必要に応じて紹介する。			
[教科書] 市販テキストは使用せず、講義中の板書と解説を、配付したプリントと併せて、一生役に立つノート作りを目指す。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文	07	通 期	2単位	滝 澤 武 人
[講義概要・学習目標] 原稿用紙の書き方から始まり、とにかくさまざまな文章を心をこめて丁寧に書くということを最低限の目標とする。毎週800字前後の作文を書いてもらい、短評を付して返却する。「書く」という作業を通して、自分自身の生き方について自覚的になってもらいたい。また他者の文章を「読む」ということを重視したい。	[講義計画] 毎週の作文テーマは、誰でもが書きやすいようなもの、そしてどこかで自分の生きざまと関わるようなものを支持する。たとえば、「おいたち」「思い出」「初恋」「旅」「スポーツ」「音楽」「映画」「クリスマス」「生と死」「セックス」「俳句」「手紙」などである。 夏休みと冬休みには4000～5000字の文章を書いてもらう。			
[成績評価の方法] 出席と平常点	[参考文献]			
[教科書] 尾川正二『原稿の書き方』（講談社現代新書）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文	08	通 期	2単位	並 川 宏 彦
[講義概要・学習目標] 文章を深く見詰めて、文章の骨格をしっかりと捉え、論点を明確にし、論理を積み重ね、結論を導き出す。また、文章の表現力やリズムを高めることも目指す。	[講義計画] 前回は「書く」として、今回は「読む」として、文章の骨格や論点を捉え、自分の文章に活かす。また、文章の表現力やリズムを高めることも目指す。			
[成績評価の方法] 提出された文章で評価する。	[参考文献]			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文	09	通 期	2単位	岡 本 洋 之
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>私はかつて英国に滞在していたとき、現地の人々からさまざまな質問を受けた。「Japan とは、どういう意味をもつ言葉なの?」、「TOKYO と KYOTO は字が入れ替わった綴りになっているけど、どうしてなの?」、「サムライって、そもそも何なの?」、「日本の北の方にはヒゲの濃い民族が住んでいるんでしょう?」等、等。私はこれらの質問に答えながら、学校で与えられた知識はその多くを忘れてはいるのに、多少とも自分で疑問をもって調べたことはしっかりと覚えていることに気がついた。</p> <p>自ら疑問をもち、それを追究するなかで発見したことを、文章にまとめる——これこそみなさんが大学で行なうべき学問であり、研究である。それは、すでに先人が発見したことを完成品とみて頭に詰め込む「勉強」とはまったく異質の、いわば知的生産の作業である。</p> <p>「勉強」のできる人が幅をきかす時代は終わった。これからは、知的生産のできる人が生き残るであろう。そこで本授業では、みなさんが自ら問いを立て、それを追究し、結果を論文にまとめるという、研究の基礎訓練を行なう。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>【前期】まず、「私の夢」(仮題)等の短い作文作業を通じ、論文のテーマを絞りこんでいく。テーマ決定後は書目や情報カードを作成しながら、論文のアウトラインを作りあげていく。</p> <p>【後期】秋に論文下書きを完成し、冬に清書を仕上げる。論文は長くなくてもよいが、序(本研究の目的と方法)・本論・結論・注の体裁が整っていることを要する。</p> <p>★なお講師は本来出席をチェックすることを好まないが、各自の進行状況を把握したり、文章作法等についての指導をする必要上、みなさんには毎回出席して教室で作業することを求める。</p> <p>★本授業は論文作成の基礎訓練という性格上、原稿用紙の使用法や、他人に読んでもらう丁寧な字を書くことの習得をもめざす。そのため、ワープロ等の使用は認めない。ワープロ等は本授業以外で大いに用いて、本授業での論文作成経験を生かしてほしい。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>テーマ報告書や情報カード、論文下書き、清書等の提出物の評価に、主要なウェイトを置く。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>本多勝一『日本語の作文技術』(朝日文庫) 保坂弘司『レポート・小論文・卒論の書き方』(講談社学術文庫) 澤田昭夫『論文のレトリック』(講談社学術文庫) 吉群廷治『論文・レポートのまとめ方』(ちくま新書)</p> <p>★他にもあるが、授業中に紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>木下是雄『レポートの組み立て方』(ちくまライブラリー)1990年</p> <p>★なおこれとは別に、各自授業に国語辞典を持参すること。</p>	<p>★なお、テーマの設定、問いの立て方に関しては、「クイズ日本人の質問」(NHK総合TV、毎日曜日夜)が示唆に富んでいる。</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文	10	通 期	2単位	藤 原 健
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>言語の四技能と言われる「読む」「書く」「聞く」「話す」のうち、現代社会においては、読む機会や話す機会は多いのに、特に「書く」という機会はあまりないように思われる。ことばを使って表現するのに大切なことは、表現力を養い、それを伸ばすことである。そのためには、ことばをただ単に知識として知っただけでなく、正確に意味を理解し、正しい使いかたを身につけなければならない。</p> <p>この講義・演習では、文章を書くことの基本から始め、レポートや論文を書くときの要領を考え、ことばや文章についての考察を行う。また、実際に何度も書いてみるという作業を通して、最終的にはまとまった論文が一人で書けるようになることを目標とし、適宜講義も行う。また、後期には自分の意見を人の前で述べる練習として、テーマを与えてディスカッションを行い、それを小論文の形にまとめるという練習も行う。</p> <p>また、授業内容に合わせて、図書館実習、ワープロ実習も行う予定である。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 文章表現の基礎 <ol style="list-style-type: none"> 1) 用字法・句読法 2) 原稿用紙の使いかた 文章表現の演習 <ol style="list-style-type: none"> 1) テーマを決めて書く 2) レポートの書きかた 3) 小論文・論文の書きかた(目的、構成) 文章の構成 <ol style="list-style-type: none"> 1) 内容・テーマ 2) 構成 3) 表記・表現 4) 推敲 5) 評価 4. ディスカッション 5. 図書館実習(文献の探しかた) 6. ワープロ実習(パソコン、ワープロの操作) 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業の中で指示する課題・作業について、提出・発表したものをもとに評価する。また、夏休み、冬休みには課題を出す。</p> <p>なお、授業で使用する原稿用紙は当方で用意する。購入の必要はない。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>河村清一郎・石丸晶子・佐藤嗣男(共著)『文章表現法』(おうふう)</p>				